



教会生活ガイド

身につけておきたい5つの習慣

GUIDE BOOK

バプテスマおめでとうございます

あなたが、セブンスデー・アドベンチスト教会という神様の家族に加えられたことを感謝し、心から歓迎いたします。イエス・キリストは天に昇られる前にこう言われました。「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしてください。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼（バプテスマ）を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい」（マタイ 28：19、20）。この「大宣教命令」の一番重要な点は「弟子にしてください」ということです。つまり、私たちクリスチャンのゴールはバプテスマではなく、キリストの弟子となるという点にあります。そのために必要なことは、日々の生活における信仰の訓練です。

初代教会の信徒たちは、「礼拝・奉仕・伝道・交わり・弟子訓練」という5つの柱をクリスチャン生活の基礎として大切にしていました。同じように私たちも、世の終わりの時代にセブンスデー（週の第7日を安息日として守り）・アドベンチスト（再臨を待ち望む神の民）として召された大切な使命と責任を果たすために、これらの要素を土台としてイエス様のご再臨に備える必要があります。そのためには、信仰生活の十分な訓練が必要です。「三つ子の魂百まで」という言葉がありますが、特にバプテスマを受けて最初の3年間に信仰生活の基本を身につけておくことは、健全なクリスチャンライフを継続するためにとっても大切です。

どうぞこの手引きを用いてくださり、キリストの弟子として、あなたの周りの人々に対し、神様の栄光を現す愛の器として成長されますように、心よりお祈りいたします。



第 1 部

教会の目的

Contents

	第 1 部 教会の目的
02	1- 1. 教会設立の目的
04	1- 2. アドベンチスト教会の歴史
	A. セブンスデー・アドベンチスト教会のはじまり
	B. 日本のセブンスデー・アドベンチスト教会
	第 2 部 教会員が大切にすべき5つの習慣
08	2- 1. 第1の習慣 み言葉に親しむ習慣
10	2- 2. 第2の習慣 絶えず祈る習慣
12	2- 3. 第3の習慣 ささげる習慣
14	2- 4. 第4の習慣 証しする習慣
16	2- 5. 第5の習慣 奉仕する習慣
	第 3 部 教会員としての責任と祝福
20	3- 1. 安息日
22	3- 2. 安息日礼拝
24	3- 3. 教会の儀式
26	3- 4. 安息日学校
28	3- 5. 健康的な生活習慣
30	3- 6. 小グループへの参加
32	3- 7. 教会組織について 1
34	3- 8. 教会組織について 2
36	3- 9. 教会役員について
38	3-10. 教会活動について
42	巻末資料

教会設立の目的

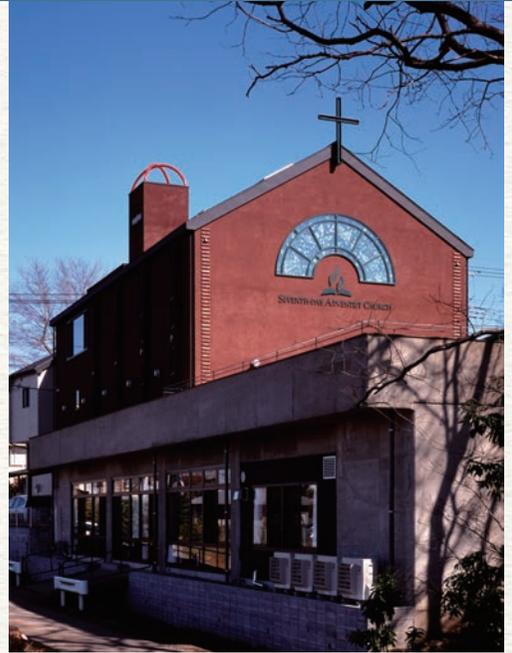
1 教会とは何か

「教会」という言葉は、ギリシャ語のキュリアケー（「主に属する」の意）、およびエクレシア（「集会」「召し出す」の意）という言葉に由来しています。つまり教会とは、「神によって呼び集められた礼拝する者の集まり」です。

エレン・ホワイトは、教会についてこのように定義しています。

「教会は人類救済のために神がお定めになった機関である。教会は奉仕するために組織された。その使命は世界に福音を伝えることである。教会を通して神の満ちあふれる豊かさを世界に反映させることが、神のはじめからのご計画であった。

暗やみから驚くべき光に招き入れられた教会員たちは、神の栄光をあらわさなければならぬ。教会はキリストの恵みに富んだ宝庫であり、教会を通して神の愛がついには『天上にあるもろもろの支配や権威』に対してさえも十分明らかに示されるのである（エペソ3：10）（『患難から栄光へ』第1章）。



2 新約聖書が教える教会の5つの要素

初代教会の信徒たちは「礼拝」「奉仕」「伝道」「交わり」「弟子訓練」という5つの要素を大切にしていました（使徒言行録2：42－47）。また、マタイによる福音書22章37～40節、28章19、20節に、教会と信徒の使命とも言える2つの重要な聖句があります。これらをまとめると次のようになります。

礼拝 心を尽くして主を愛すること

教会は、神様を礼拝するために存在します。私たちは礼拝を通して、心を尽くして神様を愛します。私たちの存在すべては礼拝のためにあるのです。礼拝とは「プログラム」のことだけではなく、私たちの生き方そのものでもあります。

奉仕 自分を愛するように隣人を愛すること

教会は、人々に奉仕するために存在します。奉仕とは、イエス様のみ名によって人々の必要に応え、神様の愛を示すことです。

伝道 行って弟子をつくること

教会は、福音を伝えるために存在します。世界に1人でもキリストを知らない人がいるかぎり、教会は成長し続けなければなりません。伝道は1つの選択肢ではなく、主のご命令です。

交わり バプテスマを授けること

教会は、人々に真実の交わりを提供するために存在します。神様は人々がバプテスマを受け、救われることを望んでおられますが、私たちはクリスチャンとして、「信じる」だけでなく、キリストの体なる神様の家族に「帰属する」ために召されています。

弟子訓練 主に従うように教えること

教会は、神の民を育て、教育するために存在します。弟子訓練は、人がすべての面において、よりイエス様に似た者となることを手助けするプロセスです。

3 残りの民と三天使の使命

神はすべての教会にご自分の子どもたちをもっておられますが、特にキリスト再臨前の終わりの時代には、「残りの教会」を用いられます（黙示録 12：17）。神は背教からご自分の民を呼び出し、また彼らをキリストの来臨に備えさせることによって、真の神の礼拝を回復するという使命を宣言しておられます。それが「三天使の使命」と呼ばれるものです（黙示録 14：6－12）。アドベンチスト教会はまさに預言に現された教会として、この預言を成就する大切な使命を託されてこの地上に置かれているのです。

Question 引用聖句を参考にし、次の質問について考えてみましょう

- Q1. なぜ教会は存在するのでしょうか。
マタイ 24：14、マタイ 28：18－20
- Q2. この世に対して教会はどうあるべきでしょうか。
マタイ 5：13－16、1ペトロ 2：9
- Q3. 神様は教会に何を望んでおられるでしょうか。
マタイ 9：35－38、ローマ 12：1－18
- Q4. どのように、それを行うべきでしょうか。
マルコ 10：43－45、ヨハネ 13：34、35



アドベンチスト教会の歴史

A セブンスデー・アドベンチスト教会のはじまり

1 ウィリアム・ミラーと大失望

「イエス・キリストは 1844 年 10 月 22 日に再臨される」——それが、北米で約 10 万人規模に広まった再臨運動のリーダー、ウィリアム・ミラーが、聖書とコンコルダンス（聖書語句索引）だけを頼りに聖句と聖句を比較しながら研究を重ねた結論でした。しかし、その日にイエス様の再臨はなく、人々は失望を経験することとなりました。

2 セブンスデー・アドベンチストの芽生え

その混乱の中に、もう 1 度聖書を調べ直して真理を追究しようとする小さなグループがありました。彼らはミラーの解釈の何が間違っていたかを詳しく調べた結果、さらに新しい真理に導かれ、ついには第 7 日安息日とイエス様の再臨とが深く結びつく真理であることを発見したのです。



さらに神様は、神の民を励ますためにエレン・ハーモンという 17 歳の少女を選ばれました（後のエレン・ホワイト）。彼女に与えられた預言の賜物^{たまもの}を通して、このグループは成長していきました。1853 年になると安息日学校をスタートさせ、1860 年には「セブンスデー・アドベンチスト」という名称を採択しました。そして 1863 年にミシガン州において最初の総会を開催したのです。わずか 3,500 人の信徒と 30 人の牧師だけでしたが、今日では信徒数は 1700 万人以上となり、毎年 100 万人以上の信徒が増え続けています。

なんと、
世界人口に換算すると
約 400 人に 1 人は
教会員ということですよ！



B 日本のセブンスデー・アドベンチスト教会

1 日本に最初に上陸したアドベンチスト宣教師

1889年（明治22年）、アブラム・ラ・ルーは日本に上陸し、文書伝道を行いました。2週間だけの滞在でしたが、アドベンチストの教えをはじめて日本へもち込んだのです。



2 ウィリアム・グレンジャーと大河平輝彦

米国・ヒルズバーグ大学に留学していた大河平^{おこひら}青年は、学生による講演会に出席し、「三天使の使命」を受け入れ、アドベンチストになりました。

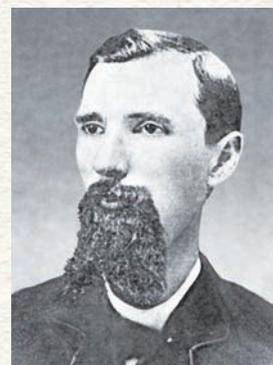
卒業を間近に控えた1894年6月、彼は祖国への熱い思いを止めることが出来なくなり、涙ながら人々に訴えました。「私は帰国して日本に終わりの時代の使命を宣べ伝える責任を感じています。私と一緒に日本に来てくださる方はいませんか？」と。

この訴えを聞いたグレンジャー学長夫妻は、日本に行く決意を固めました。学長の職に留まるよりも、困難な日本伝道の道を選んだのです。

3 日本でのアドベンチスト宣教のはじまり

1896年11月19日、横浜に上陸した彼らは、東京麻布に家を借りて「英語聖書研究会」の看板を掲げました。それが「芝和英聖書学校」に発展し、4人の青年（川崎^{もくたろう}全太郎・国谷^{くにやひいず}秀・根本俊蔵・松倉寅吉）が日本で最初にバプテスマを受けたのです。

グレンジャーの伝道活動は困窮をきわめ、1年中同じコート1枚で過ごし、夏は風呂敷で頭を覆って蚊の来襲に耐えたといえます。しかし無理がたたリ、来日して3年目、病に倒れます。死の直前、彼は国谷秀を枕もとに呼び、「あなたは同胞を愛しますか？」と問いかけてました。国谷は即座に、しかも力強く「はい！ 愛します」と答え、グレンジャーの日本伝道の働きは引き継がれたのです。「一粒の麦」となった彼の働きは多くの実を实らせています。



アドベンチスト教会の使命

アドベンチスト教会の使命を文章にまとめたものが、以下の「モットー」と「宣教理念」です。わたしたちの教会の活動はすべてこの理念に沿ったものでなければなりません。

【モットー】

福音による全人的回復をめざして (To Make People Whole)

【宣教理念】

セブンスデー・アドベンチスト教団の使命は、旧新約聖書に提示されている福音を広く世界に伝えることである。すなわち、人々に、イエス・キリストによる罪からの救いを告げ知らせ、それに基づく全人的な回復をもたらすことを目指し、世界の究極的な完成であるキリストの再臨を待ち望みつつ、より良い社会の形成に努力する。

われわれは、以上の使命を、宗教改革以来の伝統に従い、宣教と教育と社会奉仕の3つの領域において以下のように遂行する。

◆宣教 (Ministry of Proclaiming the Word)

セブンスデー・アドベンチスト教団は、全国各地に散在する信徒を中心に教会を組織する。教会は、聖書の教えに従い、週の第7日を安息日として遵守し、神の言葉の宣教と聖礼典の執行によって人々にキリストの救いを伝えるとともに、信徒の交わりをとおして、心に平和と癒しをもたらし、豊かな人間性の回復をはかる。また、教会は、多様な活動を展開し、健全な家庭の確立と地域社会の福祉および豊かな地域共同体形成のために積極的に奉仕する。

以上の奉仕によって、福音が人間の真の回復をもたらすことを証しする。

◆教育 (Ministry of Teaching)

セブンスデー・アドベンチスト教団は、福音を基とした教育活動を行うため、教育機関を設置する。各教育機関は、「霊と心とからだ」(1テサロニケ5:23)の3要素を含むトータルな人間形成による「神のかたち」(創世記1:27)の回復を推進し、信徒の子弟の教育、牧師および教団奉仕者の養成、さらには広く一般社会においてより良い社会形成のために貢献する人材の養成に邁進する。また、教育は生涯にわたる過程でもあるゆえに、教育機関のみならず各教会および各機関において、積極的に生涯教育プログラムを展開する。

以上の奉仕において、教育が究極的に「救済の働き」であることを証しする。

◆社会奉仕 (Ministry of Caring)

セブンスデー・アドベンチスト教団は、医療、福祉、健康改革をはじめとする幅広い活動を行うために、必要な機関を設置する。各機関は、それぞれの専門の動きをとおして、人間の尊厳の回復と維持および心とからだのトータルな健康の推進をめざし、「隣人を自分のように愛しなさい」(マタイ22:39)とのキリストの言葉を具体的に実践することに努める。

以上の奉仕を通して、福音が人々を身体的・精神的・社会的・霊的に豊かにすることを証しする。

第2部

教会員が大切にすべき

5つの習慣

第1の習慣

み言葉に親しむ習慣

第2の習慣

絶えず祈る習慣

第3の習慣

ささげる習慣

第4の習慣

証しする習慣

第5の習慣

奉仕する習慣

み言葉の必要性

「あなたがたは聖なる者となれ。わたしは聖なる者だからである」(1ペトロ1:16)とあるように、神様のみ心は、私たちが聖なる者となることです(1テサロニケ4:3、レビ記19:2)。私たちは自分自身の努力によって自らを清くすることはできませんが、主のみ言葉によって清くしていただくことができます(ヨハネ15:3、1テモテ4:5)。なぜならば、み言葉は、主ご自身でもあるからです(ヨハネ1:1-3)。み言葉を蓄えることはキリストと1つになることなのです。

預言者エレミヤは「あなたの御言葉が見いだされたとき／わたしはそれをむさぼり食べました」と言いました。その結果、彼の心は喜びに満たされました(エレミヤ15:16)。清い動物が食べ物を反芻(はんすう)するように(レビ記11章)、私たちもみ言葉を反芻することによって清くされ、強められるのです(詩編1:1-3、ヨシュア記1:7-9)。

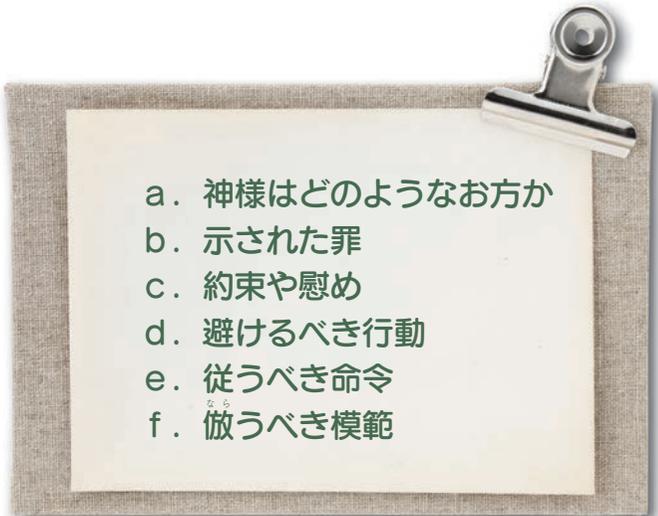
聖書の読み方

1 聖書通読

聖書は1,189章から成り立っています。1日1章読むと3年間、3~4章読むと約1年間で読み終えることができますが、章の長さが巻によって一定していないので、1日何ページ、または何分といったように時間を決めるのも良い方法です。聖書通読表(p.40)を用いるのも励みになります。

2 ディボーション(神との個人的な交わり)

み言葉を瞑想(めいそう)し、主のみ声に耳を傾けることによって、日ごとに献身を新たにしていくことをディボーションと言います。この習慣を身につけることは、信仰生活の大切な土台となります。この目的は、神様との人格的な交わりをもつことによって、主と似た姿に変えられていくことです。祈りつつ、時間をかけてみ言葉を味わい、主がみ言葉を通して個人的に何を語っておられるのかを聴いていきます。具体的には、以下の点について瞑想(めいそう)します。

- 
- a. 神様はどのようなお方か
 - b. 示された罪
 - c. 約束や慰め
 - d. 避けるべき行動
 - e. 従うべき命令
 - f. 倣(なら)うべき模範

大切なことはそれをノートに記録し、それに従って1日を歩むことです。1日の終わりにはそのノートを見ながら、振り返るときを持ちましょう。週に1度は小グループ（『3-6. 小グループへの参加』を参照）で分かち合いのときを持つことをおすすめします。

試みがしばしば抵抗できないもののように見えるのは、祈りと聖書研究を怠っているために、試みられている者が神のみ約束をすぐに思い出すことができず、聖書という武器をもってサタンに対抗することができないからである。
……危機の時に、神のみ霊がわれわれにキリストの教えを思い起こさせてくださるためには、それをあらかじめ心の中にかくわえておかねばならない。

『各時代の争闘』第37章

3 暗唱聖句

毎週の聖書研究ガイドの暗唱聖句は必ず行いましょう。また『いきいき弟子講座』の入門コースには「**暗唱聖句の10の鍵**」がありますので参考にしてください。

※教団伝道局のホームページからダウンロード可

あなたの周りに聖句の城壁を築きなさい。そうすれば、あなたは、世がそれを壊すことができないことに気づくであろう。聖句を記憶しなさい。……これは、我々の主がサタンの誘惑に対抗し、抵抗された方法である。

『レビュー・アンド・ヘラルド』1888年4月10日号

4 証の書

「証の書」は、エレン・ホワイト（『巻末資料B』を参照）を通してあらわされた「大きい光（聖書）に導くための小さな光」（『レビュー・アンド・ヘラルド』1903年1月20日号）であり、私たちの聖書理解を助けます。特に、世の終わりの時代に特別な使命を与えられたアドベンチストにとっては、欠かすことのできない大切な宝です。信仰の成長のために「証の書」に日々親しみましょう。

祈りの目的

祈りは魂の呼吸であり、霊的な力の秘訣です。また、「全能の神の無限の資財が蓄えられてある天の倉を開く信仰の手に握られた鍵」(『キリストへの道』祈りの特権)でもあります。

自分の願望が満たされることを願って祈るだけなら、それはあの放蕩息子の父に対する態度と同じです(ルカ15章)。主は、「あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存じなのだ」と言われました(マタイ6:8)。では私たちは何のために祈るのでしょうか。祈りの本来の目的とは何でしょうか。それは、神様との人格的な交わりを通して、イエス様に似た者に変えられていくことです。



執り成しの祈りと主の願い

パウロの伝道牧会の目的は、信徒の品性に「キリストの形」を見いだすことでした(ガラテヤ4:19、口語訳)。「キリストの形」とは、人々のために絶えず執り成す愛の心です(ルカ22:32、23:34、ヘブライ7:25)。イエス様は弟子たちがこの心をもつようになることを切に願っておられました。

聖書には、人々のために執り成す神の民を見いだすことのできない主の嘆きの声が記されています(イザヤ59:16、エゼキエル22:30)、それでも聖書の中には、このような執り成しの心をもった人々の姿を見ることが出来ます(出エジプト記32:32、ダニエル9:3-19、ネヘミヤ記1:4-11、ローマ9:3)。そして、「主は世界中至るところを見渡され、御自分と心を一にする者をカづけようとしておられる」(歴代誌下16:9)とあるように、キリストと心を一つにし、キリストの心をもって人々の救いのために執り成す人を見つけたなら、主は、天来の祝福を注ぎ、**聖霊による力や清さ、賜物**を与え、用いてくださいます。かつて、モーセやダニエル、ネヘミヤを用いられた主は、同じことをあなたの人生にもして下さるのです。

聖書は、「汝ら キリスト・イエスの心を心とせよ」と命じています(ピリピ2:5、文語訳)。イエス様は人々を見て、飼い主のいない羊のようなありさまを深く憐れられました。「深く憐れむ」の原語である「スプランクニゾマイ」というギリシャ語には、「はらわたがちぎれるような思いにかられる」「胸が張り裂ける」というような意味があります。

祈りを通して、人々に対するこのようなイエス様の憐れみの思いをいただくことが必要です。それが、私たちが人々を愛し、人々に仕え、救いの福音を**宣べ伝えていく原動力**となるのです。

イエスは公生涯のあいだ、この世を罪の奴隷の身から自由にさせるには、主の働きにおいて弟子たちが主と1つになることだと、絶えず彼らに教えておられた。

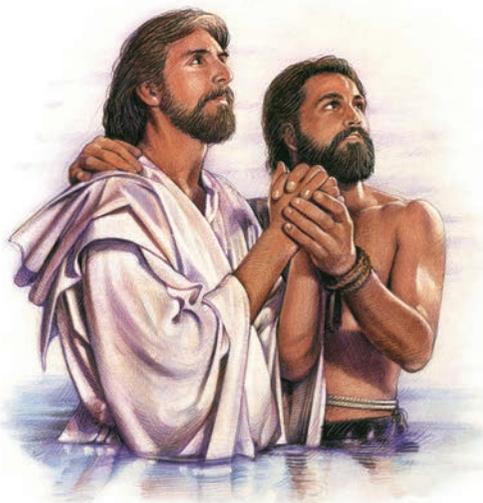
『患難から栄光へ』第3章

継続的な熱心な祈りと執り成しの祈りのリスト

常に祈ることは、主のご命令です（ローマ12：12、1テサロニケ5：17）。ひざまずいて祈るときだけではなく、祈りの心をもって人々に仕え、祈ったように生活し、従うことが大切です。祈りは必ず聞かれるという信仰をもって熱心に祈るこ

とを習慣づけましょう。主は私たちの思いをはるかに超えた祝福を与えてくださいます（エフェソ3：20）。

特に、5～7人の「執り成しの祈りのリスト」を作ってください。毎日その方々のために祈り、そしてただ祈るだけではなく、その方々にさまざまな方法で仕え、愛をもって接することを忘れないでください。祈りを通して、品性においてもキリストと1つとなる時、あなたの生涯を通して、主のご栄光があらわされ、大宣教命令が成し遂げられていくのです。



© 2015 GoodSalt Inc. All Rights Reserved

Question 引用聖句を参考にし、次の質問について考えてみましょう

Q1. キリストの思いと1つになるとき、どんな素晴らしいことが起こりますか。
ヨハネ15：7、16

Q2. ルカ11：5-13のたとえ話を読んでください。
この人はなぜパンを求めたのでしょうか。
私たちに必要とされている祈りはどんな祈りですか。

スチュワードシップとは

イエス様の十字架の贖い^{あがな}によって神の子とされた私たちは、同時に「スチュワード」（管理人）としての使命が委ねられています。生命、健康、収入、財産、能力、時間など、すべて神様から与えられる賜物^{たまもの}です。これらの賜物^{たまもの}を正しく管理し、活用することをスチュワードシップといいます。

トラストサービス

トラストという言葉には信託という意味があります。神様から与えられた信仰や財産を次世代に託していくことです。死に際して、教会や家族にあなたの財産をどのように託していきたいのか、葬儀をどう執り行ってほしいかなど、現在の年齢や健康状態に関係なく、備えをしておきましょう。特に、自分に託されている財産を家族のためだけでなく、地域の必要や教会の働きのために用いることによって、より多くの人々がより大きな祝福を受け取ることができます。具体的には牧師や教団にご相談ください。

「什一」^{じゅういち}と「ささげ物」に関する主のみ心

「天と地、海と水の源を創造」（黙示録 14：7）された神様は、私たちに多くの恵みを与えておられますが、その中でも最高の贈り物は**イエス様ご自身**です。神様は、イエス様の血潮によって私たちを贖い^{あがな}、私たちに主に似た者としてくださるのです。

「什一」^{じゅういち}と「ささげ物」（諸献金）は、その神様の恵みにあずかることでもあります。私たちが神様と交わり、神様のみ心に従いたいと思うとき、これらのことを忘れてはいけません。すなわち、私たちはささげることを通して、神様ご自身の**み業^{わざ}に参加**するのです。

「ささげ物」は、感謝の気持ちや、宣教の働きを進めたいという願いから出てくる計画的な諸献金で、「什一」^{じゅういち}は、神様と私たちの関係を表します。「ささげ物」は私たちの気持ちから出てきますが、「什一」^{じゅういち}は神様の思い（み心）が中心になっていると言えます。「什一」^{じゅういち}は、聖書が教えている原則で、神様が私たちに**委ねてくださった**生活の糧である諸税などを含む「総収入」のうちの十分の一を、すべての所有者である神様（ハガイ2：8、詩編 50：12）にお返しする制度です。

「什一」^{じゅういち}の祝福

主は、「十分の一の献げ物をすべて倉に運び／わたしの家に食物があるようにせよ。これによって、わたしを試してみよと／万軍の主は言われる。必ず、わたしはあなたたちのために／天の窓を開き／祝福を限りなく注ぐであろう」（マラキ3：10）と祝福を約束しておられます。

神様は、ご自身に忠実に従う人々を決して

お見捨てになりません（詩編 37：25）。

その他の諸献金について

イエス様の血潮によって贖^{あがな}われた私たちが、什一^{じゅういち}について忠実であるならば、大宣教命令はどんなに速やかに成し遂げられることでしょうか。什一^{じゅういち}は、教団の伝道や牧師などの給与のために用いられ、その約1割が海外の伝道資金として用いられますが、他にも大切な献金があります。

1. 教会費献金／教会費約束献金

伝道奉仕活動や教会の維持管理費として用いられる大切な献金です。什一^{じゅういち}の20～30%が目安ですが、各教会によって異なる場合があります。

2. 礼拝献金

礼拝でささげる献金です。毎週、献金目的が変わります。週報でご確認ください。

3. 安息日学校献金／安息日学校費用献金

世界伝道のために用いられます。同時にささげる費用献金は、各教会の安息日学校を運営するためのものです。

4. 13回献金

每期、13回目の安息日学校献金は、総額の25%が特別伝道地のために用いられます。特別伝道地とその伝道計画は聖書研究ガイドに紹介されています。

その他、献金にはたくさんの種類がありますが、それぞれが信仰に応じて、感謝と喜びをもってささげるものです。什一^{じゅういち}と諸献金の合計額は、収入の20%が目安となります。そのために、年のはじめに**献金のための予算**を組まれることをおすすめします。

※ 巻末資料E／Fに、スチュワードシップと献金の用途を詳細記載

伝道の2つの目的

私たちが教会に導かれたのは、自分だけが救われて天国に行くためではありません。人々を救いに導くために救われたのです。人々の永遠の命に対して無関心であってはなりません。私たちは家庭や職場、学校、地域における宣教師として遣わされているということを覚えていきましょう。

伝道には2つの目的があります。1つは大宣教命令を果たすためであり、もう1つはイエス様に似た者となるためです。ただ礼拝や聖書研究会に出席するだけでなく、誰かの救いのために奉仕するとき、聖霊の力強い働きによって品性がイエス様に似た者に変えられていくのです。伝道の働きに携わることは、イエス様のご再臨を迎える備えとなります。



証しの目的と訓練

「世の光」とされた私たちが聖霊に満たされて人々を愛し仕えるとき、存在そのものが証しとなりますが、同時に、言葉によって証しする必要もあります。特に、キリストを心の中にお迎えし、罪から救われた経験を語る「**救われた証し**」は、クリスチャンであれば誰にでもできる証しです。あなたの内になされた神様の^{わざ}み業を明らかにし、人々に「私も変えられたい」「私もイエス様を信じたい」と思ってもらえることが証しの目的です。

日常生活において、いつ、どんな場面でも、チャンスが与えられたら証しできるように備えることが大切です。実際に、3分、5分、10分の原稿を書いて、牧師にアドバイスをしてもらいましょう。何度も何度も証しをし、訓練し、自分の信仰を告白していくことはあなたの霊的な生活を向上させます。

毎安息日の礼拝後の昼食の時間はとても大切です。その週に主が自分をどんなに愛し、導いてくださったか、信徒の間で主からいただいた恵みを分かち合いましょう。昼食の場は、証しをする訓練の場へと変えられ、証しをする習慣が教会の中に生まれてきます。実際にそこに求道者がおられるならば、まさに伝道の場となるでしょう。

聖書研究にチャレンジ

エレン・ホワイトは、「たくさんの信徒が家庭を訪問し、神のみ言葉を聞いている光景が見えた。人々は聖霊の力で罪を自覚し、本当の改心の気持ちを表した」（『教会への証』9巻、英文）と書き記しています。聖書をもって人々に福音を伝えることは、牧師だけで

なく、**すべての信徒**に与えられた特権です。

VOP バイブルスクールの『アドベンチスト教理講座 ― 確かな明日をめざして』は、信徒自らが求道者や家族や友人に聖書研究を授けるための教材です。また、巻末資料 A の「セブンスデー・アドベンチストの信仰の基礎となる聖句」を用いれば、誰でも有効な聖書研究を授けることができます。

※ VOP (預言の声) : Voice of Prophecy の略

家庭における証しと家庭礼拝

各家庭において信仰継承がなされていくなれば、教会は子どもや青年たちであふれていくはずでず。家庭はあなたが宣教師として遣わされた宣教地です。キリストについて語り、子どもや孫の「ために」祈るだけではなく、子どもや孫と「共に」祈りましょう。どんなに短くても毎日必ず家庭礼拝を行うことを習慣としましょう。

そしてあなたがみ言葉に忠実に従い、愛し、仕えるその姿が、未信者の家族や地域の人々に対する説得力をもった強力な証しとなるのです。

訪問伝道

現代の日本では訪問伝道が難しいと言われていますが、こちらから出ていかなければ**出会うことのできない**人々がいます。日本は決して伝道が難しい国なのではありません。実際に、多くの人々が訪問伝道の働きを通して救いへと導かれているのです。「求めている魂と出会わせてください」と祈りましょう。必ず収穫は与えられます。教団が主催する文書伝道講習会やヒズハンズ講習会にぜひご参加ください。

わたしたちは、人々が自分のところにくるまで待ってはいはならない。わたしたちは人々がいるところへ出て行って、彼らをさがし求めねばならない。み言葉が講壇から説教された時、働きは始まったばかりである。こちらからもっていかなければ、福音に接することができない人々が、おびただしくいるのである。

『キリストの実物教訓』第 18 章



奉仕の目的

「イエスは幼い時から一つの目的を持っておられた。それは他人を祝福するために生きるということだった。」(『各時代の希望』第7章)

教会において奉仕をする目的は2つあります。

1. 神様の栄光を現すこと
(十戒の前半の4つ)
2. 隣人を祝福し高めること
(十戒の後半の6つ)

奉仕とは「礼拝」であり、礼拝によって神様は栄光をお受けになります(1ペトロ4:11)。奉仕を通して、奉仕者も隣人も高められていくのです(エフェソ4:11-13)。奉仕は、神様の栄光を現しているか、互いに高めあっているか、という点が大切です。

奉仕の基本姿勢

「人の心を動かすには、キリストの方法だけが真の成功をもたらす。人間として歩まれた間、救い主はその人たちの利益を計られ、同情を示し、その必要を満たして信頼をお受けになった。そして『わたしについて来なさい』とご命令になった。個人的に努力をして、人々に近づいていくことが必要である。……納得させる力と祈りの力と神の愛の力が伴うならば、この働きが実を結ばないことはなく、必ず結ぶのである」(『ミニストリー・オブ・ヒーリング 2005』第9章)。

この「**キリストの方法**」は、奉仕と伝道の密接な関係について教えています。主の愛をもって心を尽くして人々に仕えることは、結果的に人々を救いに導くことにつながるのです。

たまもの賜物を用いた奉仕

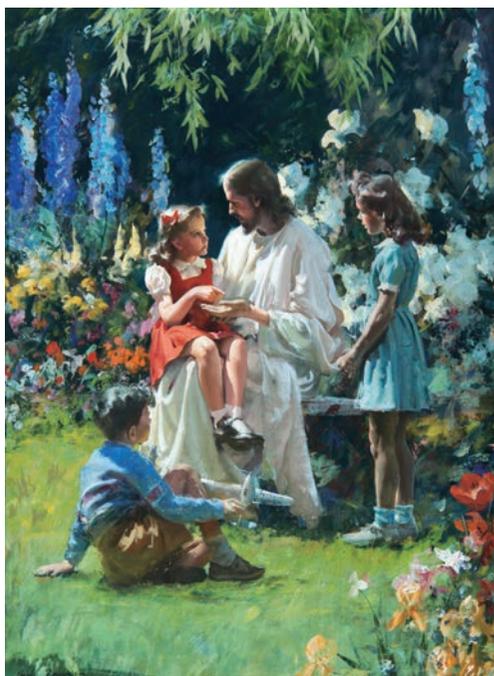
聖霊は教会がその聖なる働きを完成するために、教会員に霊の賜物(特別な才能)をお与えになります。教会員は霊の賜物を用いることによって、キリストの体なる教会に益をもたらすことができます(1コリント12:7)。また、クリスチャンになる前の遺伝的、あるいは後天的才能も、新生したクリスチャンが自ら神様にささげるとき、それらはイエス様の足もとに置かれ、神様の栄光を現し、人々を祝福するために用いられます。

奉仕活動とイエス様の再臨

イエス様の心をいただいて人々に仕えるとき、私たちの心の焦点は自分自身から他者へ



と向けられていきます。奉仕をすればするほど、イエス様の憐れみの心が私たちの心の中心を占めるようになり、私たちの品性が**変えられていく**のです。言い換えれば、他者への奉仕をせずに、イエス様と共に歩むことは不可能なのです。イエス様は「受けるよりは与える方が幸いである」（使徒言行録 20 : 35）と言われましたが、イエス様に従って、徹底的な奉仕の人生を歩むことが**豊かな人生**へ導かれる確かな道です。これは私たち自身にとってもイエス様のご再臨のための備えとなるのです。



© 2015 GoodSalt Inc. All Rights Reserved

「キリストに従う者は、奉仕をするためにあがなわれた。主は、奉仕が人生の真の目的であることをお教えになった。……他のための奉仕に生きるということは、人をキリストに結合させる。奉仕の法則が、わたしたちを、神と同胞に結びつける鎖となるのである」（『キリストの実物教訓』第 25 章）。

私たちは、身近な家族や友人や地域の方々に仕えることをまず求められます。それと同時に、教会や教団には、地域社会や世界各地の必要のために、福祉会（『3 - 10. 教会活動について』を参照）や ADRA 日本支部など、隣人に仕えるために組織された部門があります。どうぞ積極的に奉仕活動に関わってください。

Question ADRA (Adventist Development and Relief Agency) 日本支部とは？

日本では特定非営利活動 (NPO) 法人として活動。世界約120カ国の支部と協力して、国内外を問わず、多岐に渡り命を守る活動を行う。寄付、募金、ボランティアなど様々な支援の形を提案しており、誰でも参加することができる。

<http://www.adrajpn.org/>

Changing the World, One Life at a Time
ひとつの命から世界を変える



牧師・教会の7つの原則

- 宣教使命完遂への我らの挑戦 -

日本アドベンチスト教団は、以下の「7つの原則」を追求する福音中心、
救霊使命第一の牧師と教会を期待し支持する。

1. 祈りとみ言葉を最優先し キリストの心と聖霊の力を求める牧師と教会
2. 永遠の福音の宣教と救霊に献身し この使命を第一とする牧師と教会
3. 教会組織を大切にしつつ 救霊使命に自ら主体的に取り組む牧師と教会
4. 失敗を恐れず 救霊の新しい方法に挑戦し続ける牧師と教会
5. 全ての教会員が 救霊について何か役割をもつことを支援する牧師と教会
6. 地域奉仕などを通して 隣人との関係を積極的に創る牧師と教会
7. 究極の救霊の方法である 個人伝道・関係伝道を実践する牧師と教会



第3部

教会員としての 責任と祝福

安息日
安息日礼拝

教会の儀式
安息日学校

健康的な生活習慣
小グループへの参加

教会組織について1
教会組織について2

教会役員について
教会活動について

安息日

1 安息日の祝福と約束

安息日は、天地創造のときから、神様が人間に与えられた祝福の日です。全宇宙を治めておられる神様が、この日を聖別されました。聖別するとは、「特別なことのためにとっておく」という意味です。神様は人間と交わるために、この日を特別な日としてくださいました。ですから安息日に、神様を求めて来る人は必ず祝福されるのです（創世記2：1－3）。

「安息日を心に留め、これを聖別せよ。六日の間働いて、何であれあなたの仕事をし、七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない……」（出エジプト記 20：8－10）と聖書は言っています。安息日に仕事をしなければ生活のための収入を得られないのではないかと心配する必要はありません。世界を造られた神様が安息日に仕事をしてはならないと言うとき、それは安息日には仕事をしなくても神様が養ってくださることの約束でもあります。

エジプトから解放されたイスラエルの民が荒野で生活しているとき、神様は、天からマナを降らせて民を養われました。安息日にマナは降りませんでした。民が食物に困ることはありませんでした。神様が、安息日の前日に2倍のマナを降らせてくださり、集めたマナをその日のうちに料理して取って置き、安息日に食べるように言われたからです（出エジプト記 16章）。

このように、金曜日に良い準備をすることで、充実した安息日を過ごすことができるようになります。

2 ^{そな} ^び 備え日の重要性

安息日は金曜日の日没からはじまり、土曜日の日没で終わります。安息日を平安な心で迎えるために、金曜日は^{そな} ^び 備え日とされています（ヨハネ 19：31）。金曜日の日没にはサンセット礼拝を行います。聖書の言葉を読んで^{めい} ^{そう} 瞑想し、静かに祈りのときをもちましよう。家族や友人数名で集まるときには、讚美歌を歌ったり、聖書



の朗読をしたり、証の書^{あかし ぶみ}を読んだり、その週に受けたキリストの祝福を互いに証したり、あるいは子どもたちの品性の形成に役立つお話しをしたりします。長過ぎないように、しかも興味深いものにすることが大切です。最後には手をつなぎ輪になって祈るとよいでしょう。

3 安息日の過ごし方

イエス様は安息日に会堂に行って礼拝し、聖書を読んで教え、人々に奉仕されました（ルカ4：16－41）。同じように私たちが土曜日は安息日学校と礼拝に必ず出席し、パトラック（持ち寄り昼食会）をはじめとする昼食会や午後の集会があるときには可能なかぎり出席するようにしましょう。安息日に教会の伝道活動や欠席者の訪問などに誘われたときには、積極的に参加するように心がけましょう。また、自由な時間がとれる午後には、神様が造られた自然の中で過ごすのもいいでしょう。安息日は、1週間の疲れを癒し、新しい週を迎えるために必要な力を神様から受ける日でもあります。そのためには、一般的な娯楽を避け、日常的な買い物も控えましょう。世俗的な刺激からできるかぎり離れることで、健康的な休息をとることができます。そして、神様との交わりや教会員同士の交わりのために時間を取ることで、新しい週に必要な力を十分に満たしていただきましょう。

土曜日の日没にもサンセット礼拝を行い、安息日に与えられた祝福を感謝し、新しくはじまる1週間を祈りによってはじめましょう。

家庭でも賛美にあふれた礼拝を行いましょう！

新しい歌を覚えて、より楽しく！

大人用から子ども用まで
各種取り揃えております。



ご注文はアドベンチスト・ブックセンターまで



安息日礼拝

1 礼拝の意義

安息日は天地創造の記念日であると同時に、^{あがな}贖いの記念日でもあります。その安息日に、神様の創造のみ業^{わざ}と救いの恵みのゆえに神様を礼拝することは、ふさわしい行為です。霊であられる神様を礼拝する人は、霊と真理をもって礼拝するように、とイエス様は言われました（ヨハネ4：24）。神様は今も生きておられ、私たちを祝福しようと待っておられます。私たちはみ言葉を聞き、神様がすでに与えてくださっている豊かな祝福を受け取り、私たちの心と体、理性、感情、霊性、つまり自分の存在のすべてをもって、神様に感謝と賛美をささげるのです。これが、霊と真理をもって神様を礼拝するということです。

礼拝は受けるときであると同時に、ささげるときでもあります。静まって聞くときであると同時に、声たからかに賛美し、主を喜ぶときでもあります。つまり、私たちは礼拝において劇場の観客のようにではなく、積極的な参加者として自分自身をささげるのです。小さな子どもから高齢者まで、年齢を問わず喜んで参加できる礼拝を、神様は望んでおられます（黙示録 19：5）。

パウロも「自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です」（ローマ 12：1）とすすめています。

2 安息日礼拝の重要性

安息日礼拝は、教会で行われる集会の中で一番大切なものです。イエス様も、毎週安息日に会堂に入って礼拝することを習慣になさっていました（ルカ4：16）。教会員は、第7日安息日を最優先にして、1週間の計画を立てるようにしましょう。

3 礼拝の心得

モーセは燃えさかる柴の前で神様に会い、「ここに近づいてはならない。足から履物を脱ぎなさい。あなたの立っている場所は聖なる土地だから」（出エジプト記3：5）と言われました。ですから、礼拝と直接関係しない教会のさまざまな奉仕は、礼拝以外の時間にするようにしましょう。礼拝堂に入ったら私語はつつしみ、心を静めて神様に心を向けます。また、携帯電話などで神様から心をそらされないよう、あらかじめ適切な措置をとっておくようにします。

病気や事故など、やむをえない事情で礼拝を欠席する場合には、牧師、長老、または教会員の友人などに連絡するように心がけましょう。

4 礼拝次第

礼拝では、奏楽、賛美、祈り、献金、聖書朗読、説教などが行われます。賛美のとき起立したり、祈りのときにひざまずいたり、献金の後、全員で主の祈りを唱えたり、教会によって動きや順番が異なる場合もあります。公の礼拝について、決められた形式や順序はありません。

以下に紹介するのは、礼拝次第の一例です。それぞれの行為の意味をおぼえながら、礼拝に参加してみましょう。

前 奏 心を神様に向け、音楽とともに、静かに瞑想めいそうのときをもちましょう。

招 詞しょうし 礼拝にふさわしい態度と姿勢に会衆を招き入れます。詩編からの抜粋を、司会者と会衆で交読することもあります。

頌 栄しょうえい 神様をほめたたえる讃美歌を歌います。

前 禱 神様のご臨在を求め、願う祈りです。

聖書朗読 その日の礼拝の中心となるべき聖書の言葉が朗読されます。

会衆賛美 礼拝に参加している全員で一致して声をあげ、賛美と献身の歌をささげます。

[牧会]祈禱 会衆を代表して、登壇者の一人が神に語りかける祈りです。全員でひざまずいて祈ることが多いです。

賛美【特別讃美歌】 説教に関連のある讃美歌を会衆で歌うか、聖歌隊、グループ、独唱、楽器などによって代表して賛美をささげます。

献 金 献金をささげることによって、神様への感謝と献身をあらわします。

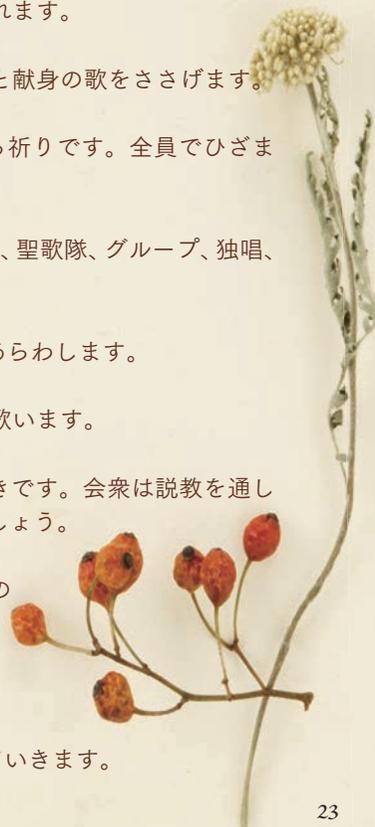
献身の歌 献身の賛美を献金とともに、または、献金の最後に歌います。

説 教 説教者を通して語られる神様のみ言葉に耳を傾けるときです。会衆は説教を通して霊的に養われます。心を開いて神様からのメッセージを聞きましょう。

会衆賛美 神様からのメッセージに対する応答として、神様への感謝と献身の心で、一致して神様を賛美します。

祝 禱しゅくとう 説教者が会衆を祝福する祈りをささげます。

後 奏 礼拝を通して養われた会衆が、再び世の中に派遣されていきます。



教会の儀式

1 バプテスマ式 『信仰の大要 15.』を参照

バプテスマ式はイエス様の死と葬りと復活を象徴しており、罪の中で生きていた古い自分が死に、イエス様と一緒に霊的に新しく生まれることを意味しています。バプテスマ式は、イエス様を個人的な救い主として信じたことを公に言い表し、教会の家族の一員として迎えらるる喜ばしい式です。したがって、この式は安息日の礼拝の中でバプテスマの誓約を行い、教会員として受け入れる決議を行った後に行われることが多いです。

通常バプテスマは、ただ一度行われるものです。再献身のために、あるいは個人的な罪の悔い改めのためには、^{せいさん}聖餐式（洗足を含む）が、その役割を果たします。

2 ^{せいさん}聖餐式 『信仰の大要 16.』を参照

イエス様は、十字架にかけられる前、パンとぶどう液で弟子たちと最後の食事をなさいました。まず弟子たちの足を洗い、「わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするように」（ヨハネ 13：15）と命じられ、食事の後、「わたしの記念としてこのように行いなさい」（ルカ 22：19）と命じられました。このイエス様のご命令に従って、アドベンチスト教会では^{せいさん}聖餐式を行っています。私たちは、イエス様のご再臨のときまで、この式を行って福音を告げ知らせるのです（1コリント 11：26）。

^{せいさん}聖餐式には、洗足式が含まれます。洗足式では、互いに足を洗いあい、^{せいさん}聖餐のための準備をします。不和、嫉妬、高慢などのけがれをイエス様によって洗い流していただき、謙遜と奉仕の心を与えていただきます。

^{せいさん}聖餐式では、私たちの罪の身代わりとして十字架で裂かれたイエス様の聖なる身体と流された血潮を象徴するために、罪と死の象徴である発酵によってけがされていない、種入れぬパンとぶどう液を食します。十字架の^{あがな}贖いによって救われたことを覚え

るこの祝福に満ちた式は、献身の思いを新たにする恵みの機会でもあります。アドベンチスト教会では3ヶ月に1回、安息日礼拝の一部として行われますので、その日の礼拝を特別に覚えて、その祝福を逃さないようにしてください。



3 その他の儀式

あんしゅれい 按手礼式

各教会で長老と執事の役割にはじめて選ばれた人に対し、^{あんしゅれい}按手礼を受けた牧師によって^{あんしゅれい}按手礼（頭の上に手を置き、祈りをささげる任命の儀式）が行われます。これによって、^{あんしゅれい}按手礼を受けた人は、教会と教会員に特別の目的と役割をもって奉仕するために、教会によって選ばれ、聖別された人であることが認められます。その役割は各教会の中にかざられます。

一方、牧師の^{あんしゅれい}按手礼は、教区／教団の審議、推薦を経て行われます。牧師としての聖なる召命を受けたことを教団が正式に承認することを意味し、生涯にわたって献身します。^{あんしゅれい}按手礼を受けた牧師は、世界のどの場所においても、福音を伝える牧師として奉仕することが認められています。



けんじ 献児式



^{けんじ}献児式は、自分の子どもを神様におささげしたいという両親の気持ちに焦点を当てた式です。聖書には、ハンナがサムエルを神様と宮の奉仕のためにささげたこと（サムエル記上1章）や、イエス様の両親がイエス様を神様にささげるためにエルサレムの神殿に連れていったこと（ルカ2章）が書かれています。

福音の牧師たちは小さな子供を腕に抱き、イエスの御名によって祝福しなさい。小さな者たちに優しい愛の言葉を語りなさい。イエスが群れの中の小羊たちを御腕に抱き、祝福されたからです。

『伝道』下巻 第10章

礼拝の一部として^{けんじ}献児式を行うことができますので、希望者は牧師にご相談ください。

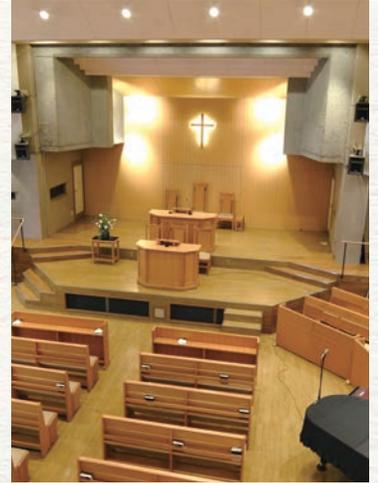


安息日学校

アドベンチスト教会の基礎ともいえる安息日学校は、世界総会が組織される10年前（1853年）に組織されました。

安息日学校の目的は4つあります。

- 1 聖書の学び
- 2 交わり
- 3 地域伝道
- 4 世界宣教



安息日学校は、聖書を学ぶ学校であると同時に、伝道者を育てる学校でもあります。教会生活の中で、聖書の学びと伝道活動は、車の両輪のような働きがあり、どちらが不足してもバランスを崩してしまいます。上記の4つの目的を意識して、安息日学校に参加するようにしましょう。

安息日学校に参加するにあたって以下のことを心がけましょう。

1. 毎日時間を決めて、聖書研究ガイド（後述）を使って聖書を学び、イエス様と交わり、聖書から学んだことを生活に適用しましょう。
2. 聖書研究ガイドの週毎に決められた暗唱聖句を覚えましょう。
3. 安息日学校には定刻出席しましょう。
4. 聖書研究ガイドをいくつかの組に分かれて学ぶ分級クラスでは、人の話をよく聞き、自分も積極的に発言しましょう。
5. 求道者や友人を安息日学校に誘うために祈りましょう。
6. 13回献金、聖別献金、誕生日感謝献金など、世界伝道のために計画的にささげるようにしましょう。

安息日学校聖書研究ガイド

安息日学校聖書研究ガイドは、世界総会（『3-7. 教会組織について1』を参照）の安息日学校部から3ヶ月毎に発行されている、聖書を毎日学ぶためのガイドブックです。全世界のアドベンチストが各国の言語に翻訳された、同じ内容の聖書研究ガイドを使って聖書を毎日学んでいます。日本語版は、日本教団の安息日学校部が翻訳・発行しています。参考書として、



副読本や教団ホームページの「ガイドのポイント」なども学びの助けとして利用することができます。

安息日学校では、分級のプログラムを有意義に過ごすために、アクションユニット（分級クラス活動）を取り入れることを推奨しています（『3-6. 小グループへの参加』を参照）。

子どものクラス

子どもたちは教会の宝です。毎安息日に子どもたちが創造主について学び、共に賛美し祈る祝福に満ちた日となるよう、安息日学校には、子どものクラスもあります。

現在、安息日学校の子ども用教材をはじめ、VBS（後述）教材も、グレースリンクという理念のもとに作られています。グレースリンクとは、グレース（神の恵み）にリンクさせる（結びつける）という意味があり、聖書の教えを、神様の恵みに結びつけるように子どもたちに伝えることを目的として作られている教材やプログラムの総称です。グレースリンクの教材は、子どもたちが五感を用いて能動的に学ぶことにより、神様との個人的な関係を作ることを目指しています。教会でのプログラムだけでなく、家庭や学校も協力的に関わることで効果が上がるように作られています。それぞれの年齢に応じた教材があります（『巻末資料 G』を参照）。



小羊クラブ

土曜日の午前中に教会に来ることができない子どもたちのために、その日の午後に行う児童伝道プログラムを、小羊クラブとよんでいます。聖書を学んだり、讃美歌を歌ったり、それぞれの教会で工夫してプログラムをもつことができます。

夏期聖書学校（VBS : Vacation Bible School）

地域の子どもたちと保護者に福音を伝えるため、夏休みをはじめとする小学校の長期休みを利用して行う特別な子ども集会です。



健康的な生活習慣

「知らないのですか。あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです。あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。だから、自分の体で神の栄光を現しなさい」（1コリント6：19、20）。

人間は霊と心と体が1つとなった存在です。イエス様が十字架で命をかけられたのは、私の霊の救いだけでなく、心も体も含めた私の全存在の救いのためだったということです。ですから、私たちは健全な肉体をもつことによって、神様の栄光を現すようにすすめられています。自分自身の健康に気をつけ、神様と人々への奉仕のために備えると同時に、健康を回復する人間本来の生活習慣を伝えることによって、神様と出会う機会を人々に与えるのです。そのような理由で、私たちアドベンチストは霊と心と体の健康的な生活を心がけています。

健康的な生活習慣を作るための鍵となるポイントとして、アドベンチストが掲げている12の項目は以下の通りです。

- | | |
|------------------|---|
| 1 選択 Choice | 7 空気 Air |
| 2 運動 Exercise | 8 節制 Temperance |
| 3 水分 Liquids | 9 高潔さ Integrity |
| 4 環境 Environment | 10 楽観的であること Optimism |
| 5 信じること Belief | 11 栄養 Nutrition |
| 6 休息 Rest | 12 ソーシャルサポート
Social Support and Services |

これら12のポイントとなる項目の英語の頭文字を並べるとCELEBRATIONSとなるため、これをセレブレーションズと呼んでいます。『トータルヘルスへの12の鍵』（福音社）という本で、各項目を詳しく学ぶことができます。

同じように、健康的な生活習慣の鍵となる、8つの項目の英語の頭文字を並べた、ニュースタート（NEW START）と呼ばれるものもあります。



セレブレーションズはこのニューススタートを増補改訂したものとと言えます。ニューススタートについて学ぶことのできる、VOP バイブルスクール「ニューススタート健康講座」がありますので、ぜひ一度受講なさることをおすすめします。

一般の社会と比較したときに、アドベンチスト教会で特に目立つ健康的な生活習慣として、「菜食（卵乳を含む）」と「禁酒禁煙」の実践があります。パトラック（持ち寄り昼食会）や教会主催のイベントでは、原則として菜食の食事を提供することを推奨しています。ただ、菜食を実践しない人の信仰は真剣でないと思われがちです。菜食の実践を、その人の信仰の優劣を測る道具にしないようにしましょう。むしろ、健康増進と疾病予防に役立つものとして、近隣の方々を誘って菜食料理教室などを主催し、楽しい交わりの手段として、また伝道のきっかけ作りとして用いてください。

日本禁酒禁煙協会（日本禁煙協会）

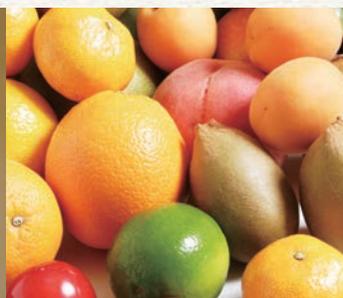
アドベンチスト教会は、全世界で禁酒禁煙を推奨し、実践してきました。日本においては、日本禁酒禁煙協会として、1960年代に「5日でタバコがやめられる」という禁煙講演会を開始し、1970年代には新幹線に禁煙車両を作るための運動をリードしてきました。現在は、青少年の喫煙予防のための講演活動に力を入れています。



禁酒運動についても、他の専門家集団とともに「日本アルコール問題連絡協議会」の一員として、2014年6月から施行された「アルコール健康障害対策基本法」の成立のために微力ながら関わってきました。

また、危険ドラッグのように、健康に致命的なダメージを与える薬物が、比較的安価で容易に入手できるため、特に青少年への影響が懸念されます。このようなドラッグの危険性についての啓発活動も今後さらに必要になってくるでしょう。

地域の人々の福祉と利益のためのこのような働きに、積極的に参加する機会を探ってみてはいかがでしょうか。



小グループへの参加

バプテスマを受けて新しく教会員になった方々は、最初の6か月の間に教会内に7人以上の友だちをつくるのが大切です。友だちをつくるために最も良い方法は、小グループに参加することです。小グループは小さな教会のようなものです。この中でメンバーは、一緒に聖書を学び、祈り、家族のように交わります。

このような小グループは、使徒時代の初代教会にも見られました。「彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった……そして、毎日ひたすら心を一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである」（使徒言行録2：42、46、47）。

小グループに参加することによって、教会が神様のもとで本当の愛によって結ばれた家族であることを、体験として知ることができます。小グループは家庭集会や教会での集会などさまざまな場所や型で行われ、どのグループに参加してもかまいませんが、ここでは教団が特におすすめしている2つの型を紹介します。

ケアグループ (CARE Group)

ケアグループの「ケア」は英語の Christ's Attitude Reflected Everyone（キリストの態度が皆に反映されている）という4つの単語の英語の頭文字を取って並べた CARE という言葉から来ています。

つまり、キリストの品性がグループ全体の間人関係の中で反映されるグループということです。また英語のケアという言葉は「お世話をする」という意味もあります。病気のメンバーを訪問したり、グループ1人ひとりが、お互いのことを心から気にかけてお世話をし合う関係づくりをしましょう。



初代教会をモデルにして、
ケアグループでは4つのことを
一緒に行います。

- 1 パンを裂く（食事）
- 2 使徒の教え（聖書の学び）
- 3 交わり（分かち合い）
- 4 祈り

左記の4つの要素を必ず入れて、
週1回程度、定期的に集会をもちます。
ケアグループの目標は大きく3つあります。

- 1 魂の救い
- 2 メンバーの霊的成長
- 3 グループの量的成長

ケアグループの鍵をにぎるのはリーダーです。「いきいき弟子講座」はそのリーダーを育成するための講座です。まだケアグループを取り入れていない教会では、あなたがリーダーになる必要があるかもしれません。祈りつつ牧師にご相談ください。

※「いきいき弟子講座」は、伝道局ホームページからダウンロード可

安息日学校 アクションユニット (分級クラス活動)

安息日学校部では、安息日学校アクションユニットを取り入れることをすすめています。安息日学校の分級クラスを6〜8人の少数に分けて、メンバー1人ひとりが積極的にクラスの活動に関わる参加型のクラスです。

日常生活に適用させる聖書の学びや、お互いのために祈ることを大切に、欠席者への働きかけや、求道者への伝道もそれぞれのグループで取り組みます。さらには、地域への伝道にも参加しやすく、神様との関係を強めていく力が与えられます。

※「安息日学校アクションユニット」のマニュアルは、伝道局ホームページからダウンロード可

教会組織について 1

教会組織の必要

預言の賜物^{たまもの}をもった小さなグループから現在のアドベンチスト教会に成長するまでには多くの困難や試練がありました。エレン・ホワイトは「私たちの人数が増加するにつれ、何かの形の組織がなければ大きな混乱が生じ、働きは成功の中に前進できないことは明らかでした。牧師の働きを支え、新しい伝道地に働きを進め、教会と牧師の働きとを信徒としてふさわしくない人々から守り、教会の財産を保管し、印刷所から真理の印刷物を発行し、そして、その他多くの目的を満たすために、組織は欠くべからざるものでした」（『聖霊に導かれて—牧師と信徒への勧め』上巻 第1章）と述べています。

教会組織の概要

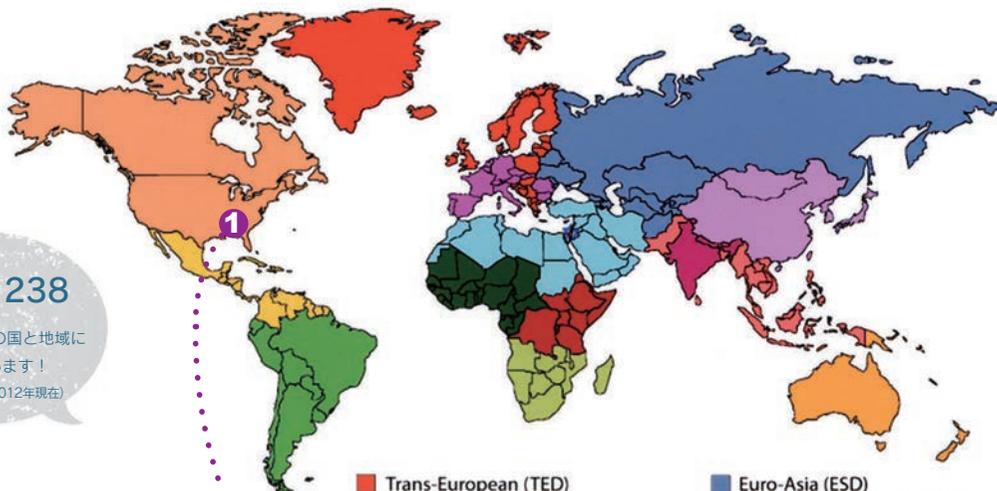
アドベンチスト教会は、世界中にある教会で、その本部はアメリカにあって世界総会と呼んでいます。世界総会の下には、数カ国から20数カ国で構成される13の支部があります。日本は、モンゴル、中国、韓国、台湾の5つの地域で構成される北アジア太平洋支部に属しています。

日本のアドベンチスト教会は、本部（教団）を横浜に置き、東日本教区、西日本教区、沖縄教区から組織されています。そして、各教会（集会所や聖書研究会）は、その所在地がある教区に属しています。さらに、教区をおよそ5～10教会単位の地区に分け、相互に協力して、地域性を活かした伝道の発展に努めています。

総会と代議制

アドベンチスト教会は代議制の形態をとっています。教会において教会事務会が開かれるように、教区は定期的に教区内の各教会が選出した代議員によって構成される総会を開き、聖霊の導きを祈り求めつつ、教区長と教区理事を選出し、伝道方針を決定します。同じく教団は5年に1度、各教区の代表代議員によって構成される総会を開き、三役である総理、総務局長、財務局長などの役員、部長、および教団理事などを選出し、日本の伝道方針を決定します。世界総会も同様に5年に1度、世界に約120ある教団の代表代議員によって構成される総会を開きます。





216 / 238

世界中の216の国と地域に
広がっています！

(国連承認国中2012年現在)

- | | | |
|------------------------|--|-------------------------------|
| ■ North American (NAD) | ■ Trans-European (TED) | ■ Euro-Asia (ESD) |
| ■ Inter-American (IAD) | ■ Inter-European (EUD) | ■ Northern Asia-Pacific (NSD) |
| ■ South American (SAD) | ■ Middle East & North Africa (MENA) | ■ Southern Asia-Pacific (SSD) |
| | ★ Israel Field (IF) | ■ Southern Asia (SUD) |
| | ■ West-Central Africa (WAD) | ■ South Pacific (SPD) |
| | ■ East-Central Africa (ECD) | |
| | ■ Southern-Africa & Indian Ocean (SID) | |



① 世界総会 (GC)

General Conference

所在地：米国 メリーランド州

12501 Old Columbia Pike,
Silver Spring, MD 20904, U.S.A

② 北アジア太平洋支部 (NSD)

Northern Asia-Pacific Division

所在地：韓国 ソウル

Sam Hee Plaza, 5th Floor,
66 Juyeop-dong, Ilsan-gu,
Goyang-si, Gyeonggi-do,
411-370 Republic of Korea

③ 日本教団 (JUC)

Japan Union Conference

横浜事務所 所在地：〒241-8501 神奈川県横浜市旭区上川井町 846

立川事務所 所在地：〒190-0011 東京都立川市高松町 3-21-8



教会組織について 2

イエス様は「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい」(マルコ 16:15)とお命じになりました。教会は聖書を学び、共に祈り賛美をもって礼拝するだけでなく、その福音を家族や友人に、そして地域社会にいる隣人に伝えていくための活動を行います。ではどのような仕組みで教会は運営されているのでしょうか。

教会事務会

教会は教会事務会を開き、教会の年間報告や計画について承認します。事務会は教会役員を選ぶために、毎年または2年に1度、役員推薦委員を選出し、推薦委員会が提出する教会長老をはじめ、教会理事やその他の役員の推薦案を承認します。

また随時、バプテスマによる教会員の受け入れや転会、除名についての決議も事務会が行います。

教会理事会

教会理事会は、教会事務会から教会の運営責任を付託されています。教会の霊的な養育と各部門の伝道活動の計画と調整を行って、伝道を発展させる働きを担っています。教会の運営はこの理事会によって行われているのです。

教会員籍

あなたはバプテスマをお受けになることによって、イエス様をあなたの個人的な救い主として受け入れたことを公に証しされました。教会はこれを受けて、あなたを教会員として迎え入れました。教会書記はあなたの教会員籍を作り、大切に保管しています。



転会 ― 教会員籍の移動の手続き

新しい土地に6ヶ月以上転居される場合、教会員籍は住民票などと同じように、これから通う教会に移しましょう。移転後すぐに、新しい教会の書記に転会を希望していることを申し出てください。もとの教会と新しい教会の書記が、転会の事務手続きを遂行します。新しい教会で信仰を分かち合える方々との新しい出会いが待っていることでしょう。

海外に転居するときも同様です。新しく出席する教会の書記に転会を希望していることを申し出てください。この場合、自分の身分を証明するためバプテスマ証明書をもっていると良い助けになります。英文の証明書が必要な場合は、教団に連絡してください。

また、通える距離に教会がない場合には、点在する教会員が所属する教区教会に教会員籍を置くこととなります。この場合は所属する教区事務所に転会の希望を申し出てください。

あなた自身の名前や連絡先が変更になったときにも教会の書記に申し出てください。また、バプテスマのときに登録した家族のほかに新しい家族が増えたときにも教会の書記に申し出てください。

教会組織をめざす小グループ

集会所は小グループの集まりで、経済的には自立していますが、教会のように独立した事務会と理事会はもたず、該当する決議は教区（教区理事会）が行います。集会所の実際の運営は、それぞれの集会所に属する教会員によって行われます。集会所は教会組織をめざして伝道活動を行います。

聖書研究会は信徒2家族以上の集まりで、定期的に安息日学校聖書研究ガイドを学び、安息日の礼拝や聖書研究の集いを行います。



教会役員について



「あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です」（1コリント 12：27）。イエス様が教会の頭です。教会役員は、それぞれに役割は違いますが、上下関係はありません。お互いを尊重し、助け合い、皆で協力しながらイエス様の愛に向かって成長するのが教会であり、教会役員はそれを助けます（1コリント 12章、エフェソ 4章）。

優れた役員を選ぶことは教会の繁栄にとってとても重要です。各教会では1年に1回、あるいは2年に1回教会役員の選出（役員推薦）を行い、注意深くこれらの役員を任命します。長老と執事は、信任状を受けた牧師から教会員の前であんしゅれい授手札を受けられることによって、その働きのために特別に召されたものであることが確認されます。

長老

教会長老は、教会の霊的な指導者です。教えと模範によって教会員の霊的成長を助けます。長老は牧師の働きを補佐し、牧師と一致協力して働きます。教会員の訪問、病人のお見舞い、祈りの奉仕、悩める人への励ましなどによって、教会員を霊的に支え、また、礼拝を指導し、伝道、運営を促進します。聖書研究の指導や、信仰生活における不安や疑問など、何でも相談すると良いでしょう。

執事

執事は、教会で行われる儀式や諸行事の手伝い、病人や困窮者の見舞いや世話など教会内のさまざまな働きに奉仕します。また、教会の維持や管理の働きに責任をもっています。

教会書記

教会書記は、教会理事会や教会事務会の書記となり、教会員名簿を正確に記録、保管し、教会の記録の全てを管理します。また、教会員の入籍、除籍についての事務をとり扱うことを任務とします。

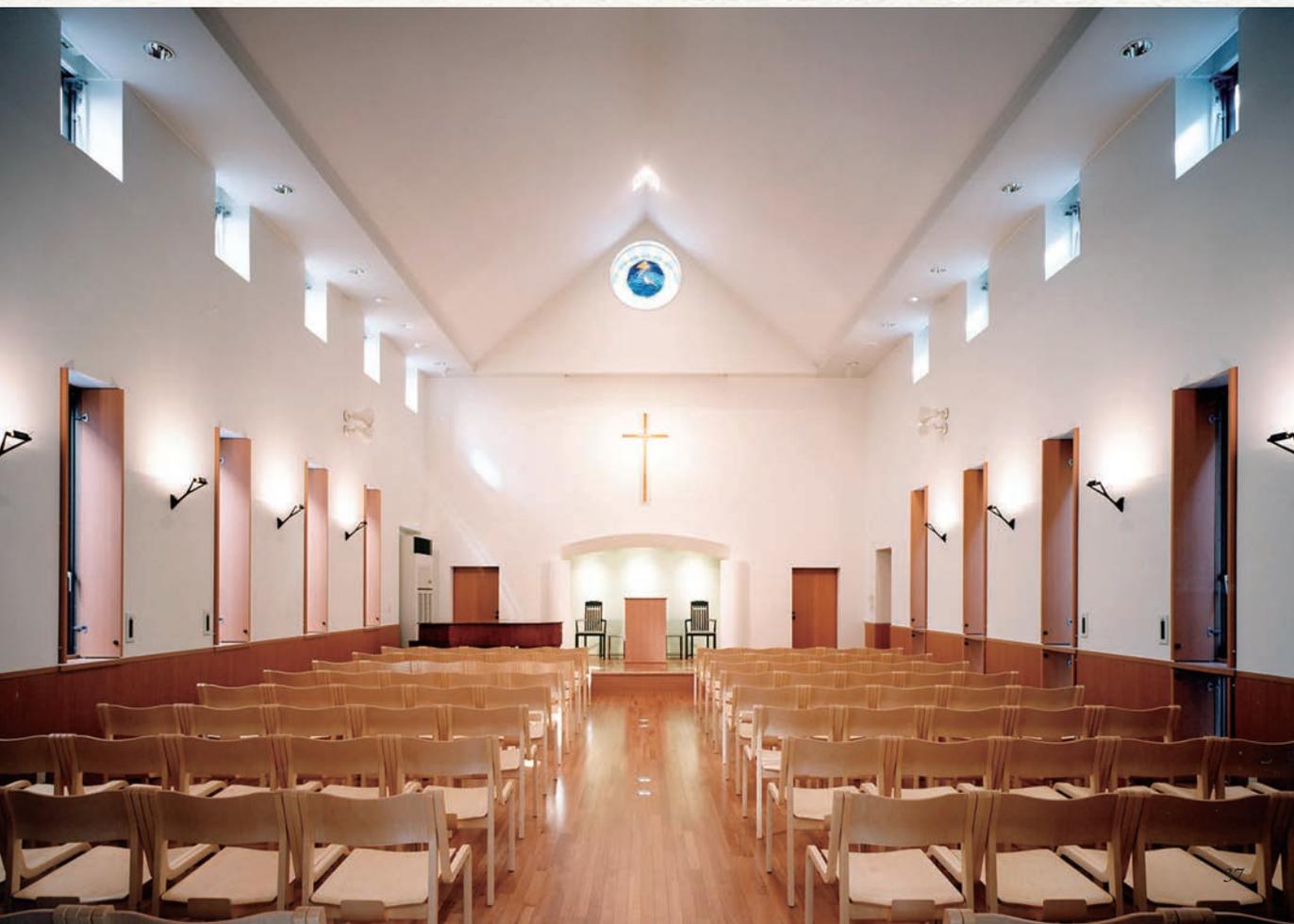
教会会計

教会会計は、教会が取り扱う資金の保管者です。教会会計は、受け取った資金や献金を会計簿に記入するとともに、その領収書を発行する責任をもっています。支払いの必要が生じた場合には、教会理事会の承認を得た上で支出しなければいけません。また、定時の教会理事会や教会事務会に対して、教会会計報告書を用意します。

その他の役員

教会には、安息日学校、信徒伝道会、福祉会、青年会、女性会、家庭会、パスマインダークラブなど（『3-10. 教会活動について』を参照）いろいろな会が組織されています。それらの役員はそれぞれの分野で奉仕活動をしています。

役員に求められる資質や役員の選出方法については、『教会指針』の「第8章 各個教会の役員と組織」、「第9章 役員の選出」に詳しく記されています。



教会活動について

教会は、安息日学校（『3-4. 安息日学校』を参照）や、いくつかの会をもって活動を行います。これらの活動に積極的に参加して、神様が与えてくださっている賜物を発見し、使命をもって教会生活を送りましょう。



信徒伝道会

救霊のために、教会員1人ひとりの力を結集する働きを担っています。伝道活動の企画だけでなく、教材や訓練プログラムを準備して、教会員をサポートします。また、様々な困難を抱える人を支援する責任も担っています。

教団では、信徒伝道者を養成するために、信徒伝道師養成コースを備えています。

福祉会

ドルカス（使徒言行録9：36 - 42）が裁縫をもって生活に困窮している人々を助けたように、手芸クラブやバザーなどの福祉的な活動を通して、彼女に倣い証しを立てています。

青年会

青年会は、15才から30代前半を主な対象として活動を行います。青年相互の聖書の学びや親睦だけではなく、児童や高齢者といった他の世代と関わりをもつことも大切です。また教会外に目を向け、伝道活動に主体的に参加することも求められています。これらを通して、ますます健康で魅力的な大人の信徒へと成長していくことを目指します。

パスファインダークラブ（PFC：Pathfinder Club）

PFCは10～15才までの少年少女たちのために組織されたクラブで、「キリスト教精神と自然体験活動を通じて青少年の心と体を育成する」ことを目的としています。これらの活動や、そこに携わる指導者との交わりを通して、キリストを見出すことを目指します。また10才未満の小学生を対象としたアドベンチャークラブもあります。

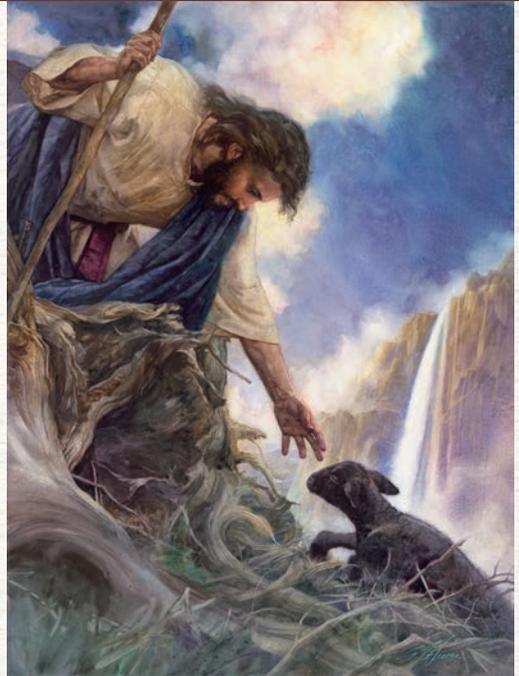


児童伝道会

子どもたちの信仰を育て、彼らを神様との個人的な関係に導きます。子どもたちが聖書の教えを実際の生活に役立てることができるような楽しいプログラムを企画します。

家庭会

「人間の回復と向上は家庭から始まり」（『ミニストリー・オブ・ヒーリング 2005』第 28 章）とあるように、幸福な家庭生活はとても重要です。クリスチャンホームの原則を学ぶことにより、夫婦関係をはじめ、家族同士の関係や責任、家庭礼拝や聖書研究、子育てや信仰継承などについて幅広く学び、主にある家庭の祝福を追及します。



The Rescue by Nathan Greene, ©2005. All Rights Reserved. Used By Permission www.nathangreene.com

女性会

教会内での女性の働きは重要です。神様が女性に備えてくださった多くの恵みを生かし、お互いに励まし合いつつ、家族や友人たちに証しをしていきます。

文書伝道クラブ

教会の伝道活動で、文書はいつでも残る福音の種です。この文書を効果的に紹介するため、文書伝道クラブを作り、戸毎訪問して福音文書を販売し、地域の方々と親しい関係を築きます。

他にもさまざまな活動があります。

ヒズハンズクラブ

伝道活動を戦略的に用いるため、ヒズハンズクラブを教会として組織し、チームを作って戸毎訪問をすることが奨励されています。相手の言葉に耳を傾け、必要に応え、信頼関係を築き、イエス様の手 (His Hands) となって、福音を宣べ伝えます。



教団伝道局は、教材やセミナーを企画提供し、あなたの教会の活動を応援しています。もし、あなたの所属する教会にこのような活動がなければ、ぜひあなたがパイオニア（先駆者）となって活動を始めてください。詳しくは、伝道局にお問い合わせください。

Memo

聖書通読表 (新共同訳)

創世記	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37
38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	出エジプト	1	2	3	4		
5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	レビ記	1		
2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	民数記	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		
12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
32	33	34	35	36	申命記	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
33	34	ヨシュア	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
16	17	18	19	20	21	22	23	24	士師記	1	2	3	4	5	6	7	8		
9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	ルツ記	1	2	3	4		
サムエル上	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	サムエル下	1	2	3		
4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
24	列王記上	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16		
17	18	19	20	21	22	列王記下	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		
12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	歴代誌上	1	2	3		
4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	歴代誌下	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		
12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
32	33	34	35	36	エズラ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	ネヘミ			
ヤ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	エステル	1	2	3		
4	5	6	7	8	9	10	ヨブ記	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	詩編	1	2	3	4	5		
6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45
46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65
66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85
86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105
106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125
126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145

146	147	148	149	150	箴言	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
コヘレト	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	雅歌	1	2				
3	4	5	6	7	8	イザヤ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		
12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51
52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	エレミヤ	1	2		
3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42
43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	哀歌	1	2	3	4	5	エゼキ			
エル	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
40	41	42	43	44	45	46	47	48	ダニエル	1	2	3	4	5	6	7	8		
9	10	11	12	ホセア	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13		
14	ヨエル	1	2	3	4	アモス	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
オバデア	1	ヨナ	1	2	3	4	ミカ	1	2	3	4	5	6						
7	ナホム	1	2	3	ハバクク	1	2	3	ゼファニヤ	1	2	3							
ハガイ	1	2	ゼカリヤ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
13	14	マラキ	1	2	3	マタイ	1	2	3	4	5	6	7						
8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
28	マルコ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
ルカ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
18	19	20	21	22	23	24	ヨハネ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10		
11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	使徒言行録	1	2	3	4	5	6		
7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
27	28	ローマ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
16	Iコリント	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16		
IIコリント	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	ガラテヤ	1				
2	3	4	5	6	エフェソ	1	2	3	4	5	6	フィリピ	1	2	3				
4	コロサイ	1	2	3	4	Iテサロニケ	1	2	3	4	5	IIテサロニケ	1						
2	3	Iテモテ	1	2	3	4	5	6	IIテモテ	1	2	3	4	テトス					
1	2	3	フィレモン	1	ヘブライ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10				
11	12	13	ヤコブ	1	2	3	4	5	Iペトロ	1	2	3	4	5	II				
ペトロ	1	2	3	Iヨハネ	1	2	3	4	5	IIヨハネ	1	IIIヨハネ							
1	ユダ	1	黙示録	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
13	14	15	16	17	18	19	20	21	22										

聖書通読が完了しましたら、教団伝道局信徒伝道部へお知らせください。「通読証明書」をお送りいたします。
Tel: 042-526-6828 (伝道局)



巻末資料

Contents

- 42 A アドベンチストの信仰の基礎となる聖句
- 44 B エレン・ホワイトの著作について
- 46 C 信仰の大要
- 52 D バプテスマの誓約
- 53 E スチュワードシップに関する預言の霊の勧告
- 54 F 献金の種類と用途
- 56 G 福音社書籍のご案内
- 58 H 教団紹介
- 61 I 機関紹介

アドベンチストの信仰の基礎となる聖句

《キリストによる赦しと受容》

- ローマ3：23 「人は全て罪人である。」
- ローマ3：10 「義人は一人もない。」
- ヨハネ3：16 「神は神を信じる全ての人に永遠の命を与える。」
- 使徒言行録4：12 「キリストを通して以外に救いの道はない。」
- エフェソ2：8、9 「救いは神の恵みによるのであって、行いによるのではない。」
- ローマ6：23 「罪の結果は死であるが、神が与えるのは永遠の命である。」
- 1ヨハネ 1：9 「罪を告白するなら、神は赦される。」
- 黙示録3：20 「主は全ての人をご自分のもとに招いておられる。」

《キリストの再臨》

- ヨハネ14：1-3 「イエスは必ず戻って来られると確約している。」
- マタイ24：3-7 「再臨の前にしるしがある。」
- マタイ24：14 「再臨の前に福音は世界に宣べ伝えられる。」
- 黙示録1：7 「キリストの再臨を全ての人が見る。」
- マタイ24：27 「キリストは全ての人に明らかに再臨される。」
- 1テサロニケ4：16、17 「キリストの再臨の時に義人は復活する。」
- 黙示録6：14-17 「キリストを受け入れない者にとって再臨は恐怖である。」
- テトス2：13 「多くの者にとって再臨は希望である。」

《神の律法》

- 申命記6：5 「旧約聖書の教える最も大切な律法。」
- レビ記19：18 「自分を愛するように、隣人を愛しなさい。」
- ローマ3：20 「律法を行うことによっては義と認められない。律法は人に罪を示す。」
- 1ヨハネ 3：4 「罪とは、神の律法に背くことである。」
- ヨハネ14：15 「神を愛する者は、神の律法を守る。」
- 黙示録12：17、14：12 「神を信じる者は世の終わりまで神の律法を守る。」

《第7日安息日》

創世記2：1－3 「第7日安息日は創造のときに神によって制定された。」

黙示録14：6、7 「神は終末時代の人々に対して、創造主なる神を賛美し、礼拝するように呼びかけておられる。」

出エジプト記20：8－11 「第7日安息日は神が人に直接手渡された十戒の中に明記されている。」

ルカ4：16 「イエスは第7日安息日を守っておられた。」

使徒言行録13：42－44 「パウロも第7日安息日を守っていた。」

イザヤ66：22、23 「天国でも安息日は守られる。」

黙示録14：12 「イエスを信じて受け入れる者は、神の掟を守る。」

黙示録12：17 「サタンは神の戒めを守る者に対して激しく怒る。」

ダニエル7：25 「悪の勢力は神の律法を歪曲しようとする。」

《死の状態》

ヨハネ11：11－14 「イエスは死を眠りにたとえられた。」

創世記2：7 「(体) + (息) = 生きる者」

コヘレト12：7 「人の体は死ぬと”ちり”に戻り、霊は神に戻る。」

詩編146：3、4 「人は死ぬと思考できなくなる。」

詩編115：17 「死人は神を賛美することはない。」

コヘレト9：5 「死者は何も知らない。」

1テサロニケ4：14、15 「再臨のときに義人が墓から復活する。」

《罪の破滅》

IIペトロ3：9 「神は1人として人が滅びることを望んでおられない。」

ヨハネ3：16、17 「神は全ての人に永遠の命を与えようとされている。」

詩編37：20 「神を拒む者は滅びる。」

マラキ3：19－21 「悪人は完全に滅ぼされ、灰のようになる。」

黙示録20：9 「天からの火が悪人を焼き尽くす。」

黙示録21：1－5 「罪が完全に消え去った後に神は新しい世界を創る。古い世界は消え去る。」

《三天使のメッセージ》

黙示録14：6－12 「キリスト再臨前に3人の天使がこの世にメッセージをもたらす。」

黙示録14：6、7 「第1の天使は、神の裁きが行われることを告げ、創造主である神を礼拝するように大声で呼びかける。」

黙示録14：8 「第2の天使はバビロンの崩壊を宣告する。バビロンとは神の教えに背き反逆する力を象徴している。バビロンは、自分の都合に合わせて神の御言葉を歪曲し、変更しようとする個人／教会／勢力であり、神の言葉に従わない。」

黙示録14：9－11 「第3の天使は”獣の印”を受けないように忠告するメッセージである。『獣』は自分たちの教え／律法をたて、神の律法よりも自分たちに従うように求める。黙示録13：3によれば、『獣』は多くの人々が受け入れている宗教的勢力である。『獣の印』とは神の求める礼拝よりも、この勢力の求める礼拝に従う者に押される『印』である。」

黙示録14：12 「神の人々とは、神の律法を守り、キリストへの信仰を持つ者である。」

黙示録14：4 「神の人々とは、イエスの導く所へどこでも従う者である。」

エレン・ホワイトの 著作について

アドベンチスト教会の働きの多くは、エレン・ホワイトの幻とその指導力によってはじめられ、今日に至っています。山形正男氏（三育学院短期大学名誉教授）は、彼女のアドベンチスト教会への6つの貢献を挙げています。①教会員の信仰、霊性への貢献、②教理確立の過程における貢献、③教会組織の確立と改編に関する貢献、④健康改革と医事伝道への貢献、⑤教育事業に関する貢献、⑥伝道の進展に関する貢献。

※私たちは証の書について正しく理解し、取り扱うことによって大きな祝福にあずかることができます。

「歴史的プロテスタントの立場と一致して、アドベンチスト教会は、聖書のみをクリスチャンの信仰と実践の基準として受け入れ、それを全体として、人間の言語で書かれた、神の真実な、信頼に足る、権威ある神の言葉として信じている。……アドベンチスト教会はエレン・ホワイトの著書を預言の賜物の働きとして受け入れるが、聖書にとって代わるもの、またはそれに付け加えられるべきものとして、受け入れているわけではない」(『アドベンチスト百科事典』P.1413、英文)。

エレン・ホワイト自身も証の書について「新しい光をもたらすものではなく、すでに啓示された靈感の真理を心に鮮明に印象づけるものである」(『教会への証』2巻、英文)と言っています。

エレン・ホワイトについてもっと知るために

『エレン・ホワイト その生涯とメッセージ』

『エレン・ホワイトをどう読むか』



『メサイア』

『各時代の争闘』新書判

『各時代の希望』文庫判 3巻セット

『キリストへの道』改訂文庫判』

『ハッピネス』2巻、3巻

『教育』

『熟年へのメッセージ』

『次世代につなぐ信仰』

『ミニストリー・オブ・ヒーリング2005』

『信仰と行い』

『清められた生活』

『伝道』上・下巻

『祝福に満ちた生活—スチュワードシップに関する勧告』

『聖霊に導かれて』上・下巻

『真のリバイバル』

『天つ家郷』

『教会への証』全3巻



『明日への希望』

* 収録されている本の内容:①人類のあけぼの(上・下)

②国と指導者(上・下)、③各時代の希望(上・中・下)

④祝福の山、⑤キリストの実物教訓、

⑥患難から栄光へ(上・下)、

⑦各時代の争闘(上・下)、⑧キリストへの道

『希望への光—クリスチャン生活編』

* 収録されている本の内容:①家庭の教育、

②若い人へのメッセージ、③アドベンチスト・ホーム、

④クリスチャンの奉仕



エレン・ホワイトの 著作の靈感と権威 現在の理解についての声明

「アドベンチスト・レビュー」1983年5月号

エレン・ホワイトの著作と聖書との関係に関するこの声明は、要請に応じて、当初、世界総会の特別委員会によって作成された。それは、『アドベンチスト・レビュー』誌(1982年7月15日号)および『ミニストリー』誌(1982年8月号)に掲載され、読者の応答を待った。その後、読者およびいくつかのグループから提案された示唆を参考にして修正され、現在の形になった。この声明は、決議されたものではないが、世界各地の声も加えて作られたものであって、われわれは、これがこの問題に対する教会の見解を反映しているものと信じている(世界総会聖書研究所 1983年)。

肯定 (Affirmations) :

われわれは、以下のことを「肯定」する。

- * 聖書は、神によって啓示された「神の言」であり、聖霊によって靈感を受けている。
- * 聖書の正典は、旧新約聖書 66 巻のみから成る。
- * 聖書は信仰の基礎であり、教理と実践にかかわるすべてのことがらの究極的な権威である。
- * 聖書は、人間の言葉で書かれた「神の言」である。
- * 聖書は、預言の賜物が新約時代以後にもあらわれ^{たまもの}ることを教えている。
- * エレン・ホワイトの奉仕と著作は、預言の賜物のあらわれである。^{たまもの}
- * エレン・ホワイトは靈感を受けており、その靈感の所産である彼女の著作は、特にセブンスデー・アドベンチスト教会に対して適用され、権威を持つものである。
- * エレン・ホワイトの著作の目的は、聖書の教えを理解し、それを霊的・道徳的生活に適用させることにある。
- * エレン・ホワイトの預言の賜物を受け入れることは、セブンスデー・アドベンチスト教会の育成と一致にとって重要である。^{たまもの}
- * エレン・ホワイトが文献資料や助手を使用したことは、聖書のいくつかの書簡の場合にも見られることである。

否定 (Denials) :

われわれは、以下のことを「否定」する。

- * エレン・ホワイトの著作における靈感の質や程度は、聖書のそれと異なる。
- * エレン・ホワイトの著作は、聖書正典に加えられべきものである。
- * エレン・ホワイトの著作は、聖書がそうであるように、キリスト教信仰の基礎であり、究極の権威である。
- * エレン・ホワイトの著作は、教理の基礎として用いることができる。
- * エレン・ホワイトの著作の研究は、聖書研究の代わりになりうる。
- * 聖書は、ただエレン・ホワイトの著作を通してのみ、理解されうる。
- * エレン・ホワイトの著作は、聖書の意味するところをあますところなく説明している。
- * エレン・ホワイトの著作は、聖書の真理を社会にあまねく宣べ伝えるために不可欠である。
- * エレン・ホワイトの著作は、単なるキリスト教的敬虔の所産である。
- * エレン・ホワイトが文献資料や助手を使用したことは、彼女の著作の靈感を否定することである。

以上の確認からわれわれはこう結論づける。すなわち、エレン・ホワイトの著作の靈感と権威に関する正しい理解は、次の**2つの極端な立場**を避けることである。

- ① エレン・ホワイトの著作を、聖書と同等の正典的な機能を果たすものとみなすことを避ける
- ② エレン・ホワイトの著作を、ごくふつうのキリスト教の文書とみなすことを避ける



信仰の大要

1. 神の言葉

旧新約聖書は書かれた神の言葉である。それは、聖霊に動かされるままに書き、また語った献身した人々を通し、神の靈感によって与えられた。この言葉を通して、神は救いに必要な知識を人間に与えられた。聖書は神のみ心の誤りのない啓示である。聖書は品性の標準を示し、人間の経験を吟味し、権威をもって教理を啓示する。聖書は歴史における神のみわざについての信頼できる記録である。

(Ⅱペトロ1:20、21、Ⅱテモテ3:16、17、詩編119:105、箴言30:5、6、イザヤ8:20、ヨハネ17:17、Ⅰテサロニケ2:13、ヘブライ4:12)

2. 三位一体

父と子と聖霊の3つの位格から成るひとりの神がおられる。神は朽ちることなく、全知全能で、すべてのものを超え、常に変わることなく存在される。神は人間の理解を超える無限のお方であるにもかかわらず、ご自身を啓示されることによって、人間に知られるお方である。神は常に、すべての造られたものの礼拝と尊崇と奉仕を受けるにふさわしいお方である。

(申命記6:4、マタイ28:19、Ⅱコリント13:13、エフェソ4:4-6、Ⅰペトロ1:2、Ⅰテモテ1:17、黙示録14:7)

3. 父なる神

父なる神はすべてのものの創造者であって、すべて造られたものの源であるとともに、それらを保ち、支配されるお方である。父なる神は正しく聖なる方、あわれみと恵みに富み、怒ること遅く、変わらない愛と真実に満ちあふれているお方である。み子と聖霊に見られる性質と力も、父なる神をあらわしている。

(創世記1:1、黙示録4:11、Ⅰコリント15:28、ヨハネ3:16、Ⅰヨハネ4:8、Ⅰテモテ1:17、出エジプト記34:6、6、ヨハネ14:9)

4. 子なる神

子なる神は人間の肉の姿を取ってイエス・キリストとなられた。万物はみ子を通して創造された。また、み子を通して神のご性質が明らかにされ、人間の救いが全うされ、世界は裁かれる。永遠からまことの神であられたみ子は、救い主イエスとしてまことの人間になられた。み

子は聖霊によってみごもられ、処女マリアよりお生まれになった。み子は人間として生き、試みにあわれたが、神の義と愛を完全にあらわされた。奇跡によってみ子は神の力をあらわし、ご自身が神の約束の救い主であることを証明された。み子はわれわれの罪のために、われわれの身代わりとなって苦しみを受け、自ら十字架にかかり、死んだのち、よみがえらされ、われわれのために天の聖所で奉仕するために天に昇られた。み子をご自分の民を最終的に救い出し、すべてのものを回復するために、栄光のうちに再び来臨される。

(ヨハネ1:1-3、コロサイ1:15-19、ヨハネ10:30、14:9、ローマ6:23、Ⅱコリント5:17-19、ヨハネ5:22、ルカ1:35、フィリピ2:5-11、ヘブライ2:9-18、Ⅰコリント15:3、4、ヘブライ8:1、2、ヨハネ14:1-3)

5. 聖霊なる神

聖霊なる神は創造と受肉^{あがな}と贖いのみわざにおいて、父なる神と子なる神と共に働かれた。聖霊は聖書記者たちに靈感を与えられた。聖霊はキリストの生涯を力で満たされた。聖霊は人間を引き寄せ、その罪を指摘される。そして、それに応答する者を生まれ変わらせ、神のかたちへと変えられる。聖霊は父と子からつかわされて常に神の子らと共にあり、教会に霊^{たまもの}の賜物を与え、キリストをあかしするように教会を力づけ、聖書に従って教会をあらゆる真理へと導かれる。

(創世記1:1、2、ルカ1:35、4:18、使徒言行録10:38、Ⅱペトロ1:21、Ⅱコリント3:18、エフェソ4:11、12、使徒言行録1:8、ヨハネ14:16-18、26、15:26、27、16:7-13)

6. 創造

神は万物の創造者であられる。神は創造のみわざの確かな記録を聖書の中に啓示された。主は6日の間に「天と地」と地の上のすべての生けるものを造り、最初の週の第7日に休まれた。こうして神は、創造のみわざの完成に絶えず心を開ける記念として安息日を制定された。最初の男と女は、創造の冠として神のかたちに造られた。彼らには世界を治める主権が与えられ、世界を保護する責任が課せられた。世界が完成したとき、それは神の栄光をあらわして「極めて良かった」。

(創世記1章、2章、出エジプト記20:8-11、詩編19:2-7、33:6、9、104編、ヘブライ11:3)

7. 人間の本性

人間は、個性を備え、思考し、行動する力と自由を持つ神のかたちに造られた。人間は自由な存在として造られたが、肉体と精神と魂の分けることのできない統一体であって、いのちと呼吸とその他すべてを神に依存している。アダムとエバが神に従わなかったとき、彼らは神に頼ることを拒み、神のもとにある高い地位から転落してしまった。彼らのうちにある神のかたちは傷つけられ、彼らは死ぬべきものとなった。子孫たちはこの墮落した性質とその結果を受け継いだ。彼らは弱さと悪への傾向を持って生まれる。しかし神は、キリストにおいて世をご自分に和解させ、聖霊によって悔い改めた者のうちに造り主のみかたちを回復させられる。人間は神の栄光のために造られ、神と人を愛し、その周囲のものを管理するように召されている。

(創世記1:26-28、2:7、詩編8:5-9、使徒言行録17:24-28、創世記3章、詩編51:5、ローマ5:12-17、Ⅱコリント5:19、20、詩編51:10、Ⅰヨハネ4:7、8、11、20、創世記2:15)

8. 大いなる戦い

すべての人間はキリストとサタンの大いなる戦いに巻き込まれている。それは神の品性と律法および宇宙に対する主権をめぐる戦いである。この戦いは天において、選択の自由を与えられて造られた存在が、自らを高くすることによって神の敵サタンとなり、一部の天使たちを反逆へと誘い出したときに始まった。サタンはアダムとエバに罪を犯させ、世界に反逆の精神をもたらした。この人間の罪は、人間のうちにある神のかたちをゆがめ、造られた世界の秩序を乱した。そして、ついには世界的な洪水が起こり、荒廃状態を生じさせることになった。世界は、造られたものすべてが注目する宇宙的な戦いの舞台となった。この戦いを通して、神は愛であることが究極的に擁護される。キリストはこの戦いの中にあるご自分の民のために、聖霊と忠実な天使をつかわし、救いの道を歩む彼らを導き、守り、支えられる。

(黙示録12:4-9、イザヤ14:12-14、エゼキエル28:12-18、創世記3章、ローマ1:19-32、5:12-21、創世記6-8章、Ⅱペトロ3:6、Ⅰコリント4:9、ヘブライ1:14)

9. キリストの生涯と死と復活

神は、神のみ心に完全に従ったキリストの生涯とその苦難、死、復活を通して、人間の罪を贖う唯一の方法を提供された。それは、信仰によって贖いを受け入れる者が永遠のいのちを受け、すべての造られたものが創造主の

無限の聖なる愛をよりよく理解するようになるためである。この完全な贖いは、神の律法が義であり、神の品性が恵み深いことを擁護する。神の義と恵みは、われわれを罪に定めるとともに、われわれに赦しをもたらすからである。キリストの死は身代わりの死であって、われわれに贖いと和解と変革をもたらす。キリストの復活は悪の力に対する神の勝利を宣言し、贖いを受け入れた者には、罪と死に対する究極的な勝利を確信させる。復活は、イエス・キリストが主であることを示す。天と地にあるすべての者は、そのみ前にひれ伏す。

(ヨハネ3:16、イザヤ53章、Ⅰペトロ2:21、22、Ⅰコリント15:3、4、20-22、Ⅱコリント5:14、15、19-21、ローマ1:4、3:25、4:25、8:3、4、Ⅰヨハネ2:2、4:10、コロサイ2:15、フィリピ2:6-11)

10. 救いの体験

神は限りない愛とあわれみをもって、罪を知らないキリストをわれわれのために罪とされた。それは、われわれがキリストにあって神の義とされるためである。われわれは聖霊に導かれて自らの必要を悟り、自らの罪深さを認め、イエスに対する信仰を働かせる。イエスは主であり、キリストであるとともに、われわれの代理にして模範である。救いを受け入れるこの信仰は、神の恵みの賜物であって、神の言葉の力を通して来る。キリストを通して、われわれは義とされ、神の息子、娘とされ、罪の支配から救われる。聖霊によって、われわれは生まれ変わり、清められる。聖霊はわれわれの心を新たにし、神の律法を心に書きつける。このようにして、われわれには聖なる生活をする力が与えられる。われわれは神のうちにおいて、神の性質にあずかる者となり、現在も将来の裁きのときも救われることを確信している。

(Ⅱコリント5:17-21、ヨハネ3:16、ガラテヤ1:4、4:4-7、テトス3:3-7、ヨハネ16:8、ガラテヤ3:13、14、Ⅰペトロ2:21、22、ローマ10:17、ルカ17:5、マルコ9:23、24、エフェソ2:5-10、ローマ3:21-26、コロサイ1:13、ローマ8:14-17、ガラテヤ3:26、ヨハネ3:3-8、Ⅰペトロ1:23、ローマ12:2、ヘブライ8:7-12、エゼキエル36:25-27、Ⅱペトロ1:3、4、ローマ8:1-4、5:6-10)

11. キリストにある成長

キリストは十字架上の死によって悪の力に勝利された。地上での宣教の働きにおいて悪霊を追い出し、制圧されたお方は、悪の力を打ち破り、悪のたどる究極の運命がどのようなものであるかを明示なさったのである。イエ

スはご自身が勝利することによって、われわれにも同じ勝利を与えてくださる。もしわれわれがイエスの愛による平安、喜び、確信に満たされて、主と共に歩むならば、われわれを何とかして降参させ、支配しようと必死に戦いを挑んでくる悪の勢力にも打ち勝つことができるのである。そして、聖霊がわれわれのうちに住み、力を与えてくださる。われわれの救い主なるイエスに絶えず献身し、イエスを信頼し続けるとき、われわれは過去の行為の重荷から解放される。もはやわれわれは暗黒の中にいるのでも、悪の勢力の恐怖や古き自分の無知やむなしさに捕らわれて生きているのでもない。イエス・キリストのうちにあり、この新しい自由を与えられたわれわれは、イエスの品性に似た者となるべく、成長していくことが求められている。日毎の祈りによるイエスとの交わり、神のみ言葉を霊の糧として霊性を養うこと、神のみ言葉とみ心の深き瞑想、讃美の歌をささげること、忠実な礼拝出席、また教会の諸活動、奉仕、伝道の働きへの積極的な参加——このようなことを通して、われわれはキリストにある成長の階段を昇ることができる。われわれが周りの人々への愛の奉仕に、また主の救いのあかしに全き献身をなすとき、主は聖霊を通して絶えずわれわれと共にご臨在くださり、すべての時間、すべてのなすわざを霊的な経験へと変えてくださるのである。

(詩編 1:1、2、23:4、77:12、13、コロサイ 1:13、14、2:6、14、15、ルカ 10:17-20、エフェソ 5:19、20、6:12-18、1テサロニケ 5:23、Ⅱペトロ 2:9、3:18、Ⅱコリント 3:17、18、フィリピ 3:7-14、1テサロニケ 5:16-18、マタイ 20:25-28、ヨハネ 20:21、ガラテヤ 5:22-25、ローマ 8:38、39、Ⅰヨハネ 4:4、ヘブライ 10:25)

12. 教会

教会はイエス・キリストを主として、また救い主として信じ、告白する者たちの共同体である。旧約時代の神の民と同じように、われわれは世から召し出されている。われわれは共に礼拝し、交わり、神の言葉を教え、主の晩餐を記念し、全人類に仕え、世界的な福音宣教に参与する。教会の権威の源は、肉となった神の言葉であるキリストと、書かれた神の言葉である聖書にある。教会は神によって神の子どもとされ、新しい契約に基づいて生きる者たちで構成される神の家族である。教会はキリストのからだであって、キリストご自身をかしらとする信仰の共同体である。教会はキリストの花嫁である。キリストは教会を清めるため、教会の身代わりとなつていのちをささげられた。勝利のうちに再臨されるとき、キリストは教会を、栄光の教会、各時代にわたる忠実な信徒、

キリストの血によって買い取られた者、しみもしわもない者、責められるべきところのない聖なる者とされる。

(創世記 12:3、使徒言行録 7:38、エフェソ 4:11-15、3:8-11、マタイ 28:19、20、16:13-20、18:18、エフェソ 2:19-22、1:22、23、5:23-27、コロサイ 1:17、18)

13. 残りの民とその使命

普遍的な教会は、キリストを真に信じるすべての者から成る。しかし、背教がはびこる終わりの時代には、神の戒めを守り、イエスの信仰を持ち続ける残りの民が召し出される。この残りの民は、裁きのときが来たことを告げ、キリストによる救いを宣べ伝え、キリストの再臨が切迫していることを知らせる。この働きは、ヨハネの黙示録 14 章に記されている 3 天使によって象徴されている。そしてそれは、天における裁きのわざと並行してなされ、地上に悔い改めと改革の働きをもたらす。すべて信じる者は、この世界的なあかしの働きに個人的に加わるように召されている。

(黙示録 12:17、14:6-12、18:1-4、Ⅱコリント 5:10、ユダ 3、14、Ⅰペトロ 1:16-19、Ⅱペトロ 3:10-14、黙示録 21:1-14)

14. キリストのからだにおける一致

教会は、あらゆる国民・部族・国語・民族から召し出された多くの肢体を持つ 1 つのからだである。われわれはキリストにあって新しく造られたものである。それゆえ、人種・教育・国籍の区別や、階級・貧富の差や性の違いは、われわれの間に不和を生じさせるものであってはならない。すべての者はキリストにあって平等である。そのキリストは 1 つのみ霊によって、われわれを主との交わりと仲間との交わりに結び入れられた。それゆえ、われわれは偏見や分派心をいだかずに、互いに仕え合うべきである。聖書におけるイエス・キリストの啓示を通して、われわれは同じ信仰と希望にあずかり、同じ宣教の働きに加わってすべての人々に福音を宣べ伝える。この一致の源は、われわれをその子としてくださった三位一体の神の 1 つなるご性質にある。

(ローマ 12:4、5、Ⅰコリント 12:12-14、マタイ 28:19、20、詩編 133:1、Ⅱコリント 5:16、17、使徒言行録 17:26、27、ガラテヤ 3:27、29、コロサイ 3:10-15、エフェソ 4:14-16、4:1-6、ヨハネ 17:20-23)

15. バプテスマ

バプテスマによって、われわれはイエス・キリストの死と復活を信じる信仰を言いあらわし、罪に死に、新しいのちに生きる決意を表明する。このようにしてわれわれは、キリストが主であり、救い主であることを認め、神の民となり、教会によってその会員として受け入れられる。バプテスマは、キリストと1つとなり、罪が赦され、聖霊を受けたしるしである。バプテスマは沈めの形式により、イエスへの信仰と罪の悔い改めを条件にほどこされる。バプテスマは、聖書研究を受け、聖書の教えを受け入れた者にほどこされる。

(ローマ6:1-6、コロサイ2:12、13、使徒言行録16:30-33、22:16、2:38、マタイ28:19、20)

16. 聖餐式

聖餐式は、主であり、救い主であるイエス・キリストを信じる信仰の表明として、イエスのからだと血の象徴にあずかることである。この交わりの中にキリストは臨在されてその民と会い、彼らを力づけられる。この礼典においてわれわれは、主が再び来られるときに至るまで主の死を喜びをもって告げ知らせる。聖餐式にあずかるため、自己を吟味し、罪の悔い改めと告白をしなければならぬ。主はまた洗足式を定められた。それは新たな清めを象徴し、キリストが示された謙虚さをもって喜んで互いに仕え合う気持ちをあらわし、愛にあってわれわれの心を1つにするものである。聖餐式は信仰を表明するすべてのクリスチャンに開かれている。

(1コリント10:16、17、11:23-30、マタイ26:17-30、黙示録3:20、ヨハネ6:48-63、13:1-17)

17. 霊の賜物と奉仕

神はどの時代にも、神の教会の会員すべてに霊の賜物を与えておられる。それは教会と人類共通の福祉のために、愛の奉仕において用いられるべきものである。聖霊は教会員それぞれに、み旨のままに賜物を分け与えられる。この聖霊による霊の賜物は、教会が神から託された役割を果たすために必要なあらゆる能力と働きをもたらす。聖書によれば、これらの賜物には、信仰、いやし、預言、宣教、教え、行政、調停、同情、自己犠牲的奉仕、援助と慈善、民の励ましなどがある。教会員のある者は神に召され、霊による能力が与えられて、牧会、伝道、教会の指導、教育といった、教会によって承認された働きに奉仕する。これらの働きは教会員をととのえて奉仕に向かわせ、教会を強めて霊的成熟へと導き、神への信頼と

神を知る知識の一致を育成するために特に必要とされる働きである。教会員がこれらの賜物を働かせて、神から与えられるさまざまな恵みを忠実に管理するとき、教会は偽りの教理の破壊的な影響から守られ、神にあって成長を続け、愛と信仰において堅固なものとなる。

(ローマ12:4-8、1コリント12:9-11、27、28、エフェソ4:8、11-16、使徒言行録6:1-7、1テモテ3:1-13、1ペトロ4:10、11)

18. 預言の賜物

聖霊の賜物の1つは預言である。この賜物は残りの教会を見分けるしるしであって、エレン・G・ホワイトの奉仕にあらわれている。主の使者としての彼女の著書は、常に権威を持った真理の源であって、教会を慰め、導き、教え、その過ちを正す。彼女の著書はまた、聖書がすべての教えと経験を審査する基準であることをも明らかにしている。

(ヨエル3:1、2、使徒言行録2:14-21、ヘブライ1:1-3、黙示録12:17、19:10)

19. 神の律法

神の律法の大原則は十戒に具体化され、キリストの生涯に明らかとなっている。十戒は人間の行動と関係に対する神の愛とみ旨と目的をあらわしており、あらゆる時代のすべての人が守るべきものである。これらの戒めは神とその民との契約の基礎であり、神の裁きの基準である。聖霊の働きを通して十戒は罪を指摘し、救い主の必要を感じさせる。救いは全く恵みによるのであって行いによらないが、救いの実実は戒めへの服従である。この服従はクリスチャン品性を発達させ、心に平安をもたらす。それは主に対する愛と隣人への関心のあらわれである。信仰の従順はわれわれの生活を変えるキリストの力を示し、クリスチャンのあかしを力強いものとする。

(出エジプト記20:1-17、詩編40:8、9、マタイ22:36-40、申命記28:1-14、マタイ5:17-20、ヘブライ8:8-10、ヨハネ15:7-10、エフェソ2:8-10、1ヨハネ5:3、ローマ8:3、4、詩編19:8-15)

20. 安息日

恵み深い創造主は、6日にわたる創造のわざを終えて7日目に休まれ、創造の記念としてすべての人のために安息日を制定された。神の不変の律法の第4条は、この7日目安息日を休息と礼拝と奉仕の日として守るよう求め

ている。それは、安息日の主であるイエスが教え、実践されたことと調和する。安息日は神と人との喜びにあふれた交わりの日である。安息日はキリストにおける贖いあがなの象徴であるとともに、われわれにおける聖化と忠誠のしるしであり、神の国における永遠の世界の先取りでもある。安息日は神と民との間における永遠の契約の変わらぬしるしである。この聖なる時間を夕べから夕べまで、すなわち日没から日没まで喜びにあふれて守ることは、神の創造あがなのみわざを祝うことである。

(創世記2:1-3、出エジプト記20:8-11、ルカ4:16、イザヤ56:5、6、58:13、14、マタイ12:1-12、出エジプト記31:13-17、エゼキエル20:12、20、申命記5:12-15、ヘブライ4:1-11、レビ記23:32、マルコ1:32)

21. 管理者としての務め

われわれは、時間や機会、才能や資産、地の恩恵や資源を神から委ねられた神の管理者である。われわれはそれらを正しく用いるように、神に対して責任を負っている。われわれは、一切の所有権が神にあることを認めて、神と人に対して忠実に仕えるとともに、福音の宣教と神の教会の維持発展のために什一や諸献金をささげる。管理者の務めは神から与えられた特権であって、それは愛を育成し、利己心と貪欲を克服する。管理者は、自分が忠実に働いた結果人々にもたらされる祝福を喜ぶ。

(創世記1:26-28、2:15、歴代誌上29:14、ハガイ1:3-11、マラキ3:8-12、Iコリント9:9-14、マタイ23:23、IIコリント8:1-15、ローマ15:26、27)

22. クリスマンの行動

われわれは天の原則に調和して考え、感じ、行動する敬虔な民であるように召されている。われわれは、キリストに見られる純粋さと健康と喜びを生活の中に造り出すような事柄だけに関係する。それは、聖霊がわれわれのうちに主の品性を再創造してくださるためである。このことは、われわれが参加する娯楽や楽しみが、クリスマンにふさわしい好みや美しさの最高の標準に合致していなければならないことを意味する。文化的な違いに留意しながらも、われわれの服装は単純で、清潔で、よく似合うものであるべきである。そこにあらわれる真の美しさは、外面の飾りによるのではなく、柔和でしとやかな霊という朽ちることのない飾りによる。それはまた、からだを賢明に大切にすべきであることを意味する。からだは聖霊の宮だからである。十分な運動をし、十分な休息を取るとともに、できる限りもっとも健康的な食物

を摂り、聖書に示されている汚れた食物を絶つべきである。アルコール性の飲み物やタバコ、また麻薬や麻酔剤の無責任な使用はからだに有害であるので、これらをも避けるべきである。むしろ、思いとからだをキリストの訓練へと導くような事柄に参加すべきである。キリストは、われわれが健康で喜びにあふれ、誠実に生きることを願っておられる。

(ローマ12:1、2、Iヨハネ2:6、エフェソ5:1-21、フィリピ4:8、IIコリント10:5、6:14-7:1、Iペトロ3:1-4、Iコリント6:19、20、10:31、レビ記11:1-47、IIIヨハネ2)

23. 結婚と家庭

結婚はエデンにおいて神によって制定され、愛の交わりにおける男女の生涯にわたる結合として、イエスによって認められた。クリスマンにとって結婚の契約は、伴侶に対すると同時に神に対するものであって、信仰を同じくする者の間だけでなされるべきである。この関係を支えるものは、相互の愛と名誉と尊敬と責任である。そしてそれは、キリストと教会の間にある愛に満ちた清い関係、また親密で永続する関係の反映であるべきである。離婚についてイエスは、不品行以外の理由で離婚し、他の者と再婚することは姦淫の罪を犯すことであると教えられた。ある家族は理想に達してはいないかもしれないが、キリストにあって完全に委ね合った夫婦は、聖霊の指導と教会の交わりを通して愛の一致に達することができる。神は家庭を祝福し、家族が互いに助け合って、成熟した完全な家庭を目指していくよう願っておられる。両親は、子どもたちが主を愛し、主に従うように彼らを育てなければならない。両親は自分たちの行為と言葉を通して、キリストが愛に満ちあふれた訓練者で、常に変わらない優しさをもって配慮し、そのからだなる神の家族の一員になることを望んでおられることを、子どもたちに教えなければならない。家族の親密さが増すことは、福音の最後の使命の特徴の1つである。

(創世記2:18-25、マタイ19:3-9、ヨハネ2:1-11、IIコリント6:14、エフェソ5:21-33、マタイ5:31、32、マルコ10:11、12、ルカ16:18、Iコリント7:10、11、出エジプト記20:12、エフェソ6:1-4、申命記6:5-9、箴言22:6、マラキ3:23、24)

24. 天の聖所におけるキリストの奉仕

天には、人間ではなく、神が備えられた真の幕屋なる聖所がある。その中でキリストは、十字架上でただ1度だけささげられた贖罪の犠牲の恩恵が、信じる者たちと与

えられるように奉仕しておられる。キリストは昇天してわれわれの大祭司となり、仲保の働きを開始された。そして、2300日の預言期間が終了した1844年に、贖罪の働きの第2の、そして最後の段階に入られた。それは、すべての罪を最終的に処理する働きの一部となる調査審判の働きであって、古代イスラエルにおける「贖罪の日」の聖所の清めに予表されていた。この予型としての奉仕では、聖所は動物の犠牲の血で清められたが、天の聖所は完全な犠牲であるイエスの血によって清められる。調査審判は、死者のうち誰がキリストにあって眠っているのか、すなわち誰がキリストにあって最初の復活にあずかるにふさわしいかを天の住民に明らかにする。それはまた、生きている者のうち誰がキリストにあって神の戒めを守り、イエスの信仰を持ち続けているか、すなわち誰がキリストにあって永遠のみ国へたずさえ入れられる用意ができていのかをも明らかにする。この裁きはイエスを信じる者を救うことで神の義を擁護する。それは、神に忠実であり続けた者がみ国を受けることを宣言する。キリストのこの働きが終わるとき、人間に与えられている再臨前の恩恵期間も終了する。

(ヘブライ8:1-5、4:14-16、9:11-28、10:19-22、1:3、2:16、17、ダニエル7:9-27、8:13、14、9:24-27、民数記14:34、エゼキエル4:6、レビ記16章、黙示録14:6、7、20:12、14:12、22:12)

25. キリストの再臨

キリストの再臨は祝福に満ちた教会の望みであり、福音の壮大な頂点である。救い主は、文字どおり、からだを持って世界中の人々の目に見える姿で来臨される。キリストが来臨される時、死んでいる義人はよみがえらせられ、生きている義人と共に栄化され、天に上げられる。しかし、不義なる者たちは死ぬ。預言がほぼ完全に成就してきたことは、現在の世界の状況とあいまってキリストの来臨が切迫していることを示している。この出来事がいつ起こるかは、明らかにされていない。それゆえ、われわれは常に用意をしているように勧められている。

(テトス2:13、ヘブライ9:28、ヨハネ14:1-3、使徒言行録1:9-11、マタイ24:14、黙示録1:7、マタイ24:43、44、1テサロニケ4:13-18、1コリント15:51-54、2テサロニケ1:7-10、2:8、黙示録14:14-20、19:11-21、マタイ24章、マルコ13章、ルカ21章、2テモテ3:1-5、1テサロニケ5:1-6)

26. 死と復活

罪の支払う報酬は死である。しかし、神はただひとり不死であり、贖^{あがな}われた者に永遠のいのちをお与えになる。その日まで、すべての人にとって死は無意識の状態である。われわれのいのちであるキリストが来られるとき、よみがえらされた義人と生きている義人とは栄化され、引き上げられて主に会う。第2の復活は不義なる者たちの復活であって、1000年ののちに起こる。

(ローマ6:23、1テモテ6:15、16、コヘレト9:5、6、詩編146:3、4、ヨハネ11:11-14、コロサイ3:4、1コリント15:51-54、1テサロニケ4:13-17、ヨハネ5:28、29、黙示録20:1-10)

27. 千年期と罪の終わり

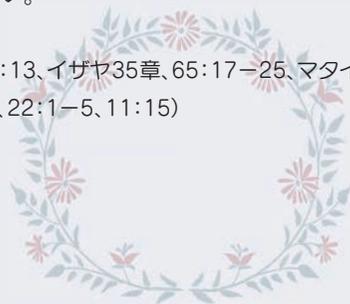
千年期とは、第1の復活と第2の復活にはさまれた、1000年にわたるキリストと聖徒たちの天における支配のことである。この間、死んだ悪人が裁かれ、地は生きている住人もなく、サタンとその使いたちに占領されて全く荒廃する。この期間の終わりに、キリストは聖徒を伴い、聖なる都と共に天から地に降りて来られる。そののち、死んでいる不義なる者たちがよみがえらせられ、サタンとその使いたちと共に聖なる都を包囲する。しかし、神から出る火は彼らを焼き尽くし、地を清める。こうして、宇宙は永遠に罪と罪人から解放される。

(黙示録20章、1コリント6:2、3、エレミヤ4:23-26、黙示録21:1-5、マラキ3:19、エゼキエル28:18、19)

28. 新しい地

神は贖^{あがな}われた者たちのために、義の支配する新しい地に永遠のすまいと、永遠のいのちと愛と喜びを与えてくれる完全な環境と、神のみ前での学びを用意してくださる。そこには神ご自身が民と共に住まれ、苦しみや死は過ぎ去る。大いなる戦いは終わり、罪はもはや存在しない。いのちあるものもそうでないものもすべては、神が愛であることを明らかにする。神はとこしえに統べ治められる。アーメン。

(11ペトロ3:13、イザヤ35章、65:17-25、マタイ5:5、黙示録21:1-7、22:1-5、11:15)



バプテスマの誓約

1. わたしは、唯一の神——すなわち、父なる神、み子イエス・キリスト、聖霊なる神——が、三位一体の永遠の神であることを信じます。
2. わたしは、カルバリーにおけるイエス・キリストの死を、わたしの罪を贖^{あがな}う犠牲として受け入れ、神の恵みにより、その流された血を信じる信仰によって、わたしが罪とその刑罰から救われることを信じます。
3. わたしは、イエス・キリストを自分自身の主、また救い主として受け入れ、神がキリストにあってわたしの罪を赦し、新たな心を与えてくださっていることを信じます。またわたしは、この世の罪の道を捨てます。
4. わたしは、天の聖所におけるわたしの仲保者であるキリストの義を信仰によって受け入れ、わたしの家庭において、また世の前に、キリスト中心の愛の生活をするために心を変える恵みと力を与えるというキリストの約束を信じます。
5. わたしは、聖書が神の靈感によるみ言葉であって、それがクリスチャンの信仰と行為の唯一の基準であることを信じます。またわたしは、計画的に祈りと聖書研究に時間を用いることを約束します。
6. わたしは、神のご品性の写してあり、神のみ旨のあらわれである十戒を受け入れます。また、週の第7日を主の安息日、創造の記念日として守ることを要求する第4条を含めて、このおきてを、内住するキリストの力によって守る決意があります。
7. わたしは、「この朽ちるべきものが朽ちないものを着（る）」（1コリント 15：54）とくに実現する祝福された望み、間近なイエスの来臨を待ち望んでいます。わたしが主に会う準備をするときに、主の愛の救いのあかしを立て、自分の能力を用いることで、主の栄光ある出現に他の人々を備えさせる救霊の努力をします。
8. わたしは、霊の賜物^{たまもの}についての教理を受け入れ、預言の霊は残りの教会を証明するしるしの1つであることを信じます。
9. わたしは、教会組織を信じ、什一と諸献金、また個人的な努力と影響力によって教会を支える決意があります。
10. わたしは、自分のからだが聖霊の宮であることを信じます。また、からだを大切にすることによって神をあがめます。また、有害なものをを用いることを避け、すべての清くない食べ物を慎み、アルコール性飲料の使用、製造、販売、またいかなる形であっても、タバコの使用、製造、販売を行わず、麻薬類の乱用、不正な取引を避けます。
11. わたしは、セブンスデー・アドベンチスト教会が教える聖書の基礎的原則をよく理解して、神の恵みにより、わたしの生活をこれらの原則と一致させることで神のみ旨を行う決意があります。
12. わたしは、新約聖書に教えられている沈めのバプテスマを信じ、キリストと彼によるわたしの罪の赦しを信じる信仰の公の表明として、バプテスマを受けることを望みます。
13. わたしは、セブンスデー・アドベンチスト教会が聖書の預言の残りの教会であることを信じ、またすべての国、民族、国語から人々がこの教会に招かれ、その交わりの中に受け入れられることを信じます。わたしは、この世界教会の一員となることを望みます。

スチュワードシップに関する預言の霊の勧告

「個人の財産がどんなに多かろうと少なかろうと、それは委託されたものに過ぎないことを覚えていなければならない。……神が私たちに与えてくださるのは私たちが他の人々に与えることによって、神のように寛大で気高く、情深い者となるためである。」(『祝福に満ちた生活』第3章)

「神が慈善の制度を計画なさったのは、人が慈悲と無私の品性において創造者に似た者となり、ついにはキリストと共に永遠の輝かしい報いに預かる者となるためなのである。」(同上 第1章)

「私たちはこの世に試験的に置かれているのであって、それによって未来の生活にふさわしい者かどうか決定されることを忘れてはならない。……そこで神は、現世において私たちが一時的な財産を託し、私たちがこの財産をどう用いるかによって永遠の富を委ねることができるかどうかを試しておられるのである。」(同上 第3章)

スチュワードシップの7不思議

その1 — 与えられる大きな喜び

- ①主のためにこんなにささげるお金があったこと
- ②神に対する責任を思ったより容易に果たすことができたこと
- ③神を驚くほど近く感じたこと
- ④ささげる喜びが予想以上に大きかったこと
- ⑤時間と能力とささげものを神のために使うことによって、想像もしなかった満足を覚えたこと
- ⑥神の愛がどれほど深いものであるかを知ったこと
- ⑦なぜもっと早くスチュワードシップを実行しなかったかと思ひ不思議に思ったこと

その2 — 約束された祝福

- ①忠実にささげることで、ほかの金銭や持ち物を上手に使うようになる
- ②必要が満たされるために主に頼ることで、霊的生活が高められる

- ③残りの10分の9で家計をやりくりする時、平安が与えられる
- ④什一をささげはじめると、以前には考えられないほど、さらに惜しまなくなる
- ⑤惜しまず、多くの金額を主の働きのためにささげることができる
- ⑥神は、予期せぬ補いをもたらせてくださる
- ⑦什一、またはそれ以上の献金をしたと思ったたん、驚くべきことが起こる

スチュワードシップに関する金言

「あなたの預金通帳やクレジットカードの明細書は神学的な書類です。あなたが誰を、何を拝んでいるかを告げています」(ブライアン・クルス)

「10%を返すことは、ささげることの天井ではなく、床である。それは、ささげること最終線ではなく、スタート台である」(ブライアン・クルス)

「私は什一の力を確信しています。私の体験では、ささげればささげるほど、さらに入ってくるのです」(ケン・ブランチャード)

「世界は、全的に主に献身した人と一緒に、神が何をおできになるかを見なければならぬ」(ドワイト・ムーディー)

「礼拝は、神との私たちの歩みを他の人々との関係に結び付けてくれます。他人をどう扱うかは、私たち自身の恵みの経験に反映されます。献身の心から日常の活動や仕事に神を示す時に、家庭や仕事場は礼拝の場所になります」(B.C. マクソン)

「わたしはシャベルでお金を出した。すると神は、シャベルで返してくださった。しかも、神のシャベルは大きかった」(R.G. リターンノウ)

「礼拝とは、神が人に下さった最上のものを、神にささげることである」(オズワルド・チェンバース)

「たとえわたしが全財産を神にささげても、それ以上を返す方法を神は見つけられる」(チャールズ・スポルジョン)

「あなたの富に応じてささげなさい。神はあなたのささげ物に応じて富をおかれる」(ジョン・ホール)

献金の種類と用途

個人献金（什一の封筒でささげる献金）

教団送金献金	教会保存献金
什一	教会費約束献金
感謝献金 ー (1)*	その他（教会による）
メディア伝道約束献金 ー (5)*	

※十分の一の計算方法 ---- 例えば、月給収入の場合、十分の一は、諸税などの控除がなされる前の総収入額で計算されます。自営業の方など経営費を差し引く目安が知りたい方は、教団伝道局のホームページ「ステewardシップ」の中の「クリスチャンは、なぜ十分の一をささげるか」をご覧ください。

※献金振込先 ---- お近くに教会がない場合、什一またはその他献金を教団に直接送金することが可能です。

ゆうちょ銀行 振替口座

記号番号：00260-0-48543

名義：セブンスデーアドベンチスト教団 通信欄：什一または〇〇献金と記載

注) 送金額が現金振込限度を超える場合は、教会事務部（0570-045-921）にご連絡ください。

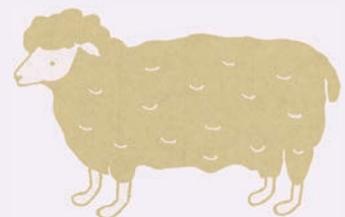
礼拝献金

	教団送金献金	教会保存献金
第1週	サインズ献金（年1回） ー (3)*	教会費
第2週	世界総会・支部・教団献金 ー (2)*	
第3週	教育献金 ー (4)*	
第4週		教会費
第5週	メディア伝道献金 ー (5)*	

新年礼拝：新年特別献金 ー (6)*

安息日学校献金 / SS(エスエス)献金ともいう

教団送金献金	教会保存献金
安息日学校献金	安息日学校費用献金
13回献金	
誕生日献金 ー (7)*	
聖別献金 ー (8)*	



(1)* 感謝献金 神様に対する感謝のささげものとしてささげられる献金で、日本の伝道活動のために用いられます。

(2)* 第2週 礼拝献金の目的

◆世界総会に送付、世界規模で用いられる献金◆

①世界伝道献金は、様々な世界伝道プロジェクトや海外宣教師のために用いられます。

②年末犠牲（グローバルミッション）献金は、1920年世界恐慌のため、世界総会は予算上世界中の宣教師を呼び戻さなければいけない状況にありました。そのとき、世界中の教会員に「1年に1度の犠牲の献金」を訴え、その目安を「1週間分の給与額」としました。恐慌の最中にも関わらず、極めて多額の献金が集められ、世界伝道（宣教）を続けることができたというの

が、この特別献金の始まりです。現在は、グローバルミッション献金として宣教の最前線で用いられています。

③ 災害援助献金 (Disaster and Famine Relief Offering) 献金は、世界中の緊急事態や人道的援助のために用いられます。

④ アドベンチストワールドラジオ献金は、宣教師が働くことが難しい地域あるいは教会や伝道拠点を建てにくい国や地域に、ラジオを用いた伝道を展開するために用いられます。世界総会は「アドベンチストワールドラジオ (AWR)」という部門をもっています。

◆北アジア太平洋支部 (NSD) で用いられる献金◆

⑤ 1000人宣教師献金は、青年がフィリピンで研修を受け、その後ボランティアとしてアジア各地に宣教の目的で送り出すために用いられます。すでに何千もの人々がバプテスマを受け、新しい教会が次々に設立されています。青年宣教師たちはミッション・スピリットをもって母国に帰り、教会リーダーとして活躍しています。

⑥ アドベンチストミッション献金 (支部 50%、日本国内 50%) は、伝道の空白区の地域や人々のための伝道活動や、また近年からは困難な状況にある教会を支えるために用いられます。国内の開拓伝道のためにも用いられています。

⑦ アイアス / 教育伝道特別献金は、フィリピンに設置されている世界総会所属のアドベンチスト国際大学院 (AIIAS) の学生や、多くの現役の牧師が継続して学びを受けるために用いられます。日本からも、神学生だけでなく、現役の牧師や教師が継続教育の学びをしています。

◆国内(教団内)で用いられる献金◆

⑧ 次世代育成のための献金

(ア) 牧師・教師養成奨学金献金 次世代の牧師、三育教師を養成するため、全額三育学院カレッジへ送られ、奨学金資金として用いられます。

(イ) 信徒子弟奨学金献金 全寮制の三育中学校また三育学院高等学校で学ぶ次世代の若者を育てるために、この献金は設定されています。

(3)* サインズ献金 伝道誌『サインズ』を用いた伝道を補助するために用いられます。

(4)* 教育献金 全国の三育幼稚園、小中高等学校を支えるために、この献金は全国から集められ、教団教育局を通して各学校へ送られています。少人数制での三育教育は、次世代の信徒子弟の育成、青少年伝道すなわち教育伝道として欠かせません。皆様の祈りと献金で三育教育は支えられています。

(5)* メディア伝道献金 (メディア伝道約束献金)

ラジオ放送「光とともに」、AWR-JAPAN、無料の電話フリーダイヤル伝道、インターネット伝道、また聖書通信講座の制作運営など、教団の伝道の働きの柱の1つである「メディアセンター」の働きのために用いられます。

(6)* 新年特別献金 新年を迎えるにあたり、神様に感謝の気持ちを表すための献金で、日本国内の特別な伝道プロジェクトのために用いられます。

(7)* 誕生日献金 (誕生日感謝献金) 19世紀後半、米国で世界伝道とその開拓宣教師家族のことを覚え、過ぎし1年の感謝の一部を世界伝道のためにささげることが提唱されました。当時、1才につき1セントだったそうです。誕生日には、世界に出て行って開拓伝道をされている宣教師家族のことを覚えましょう。

(8)* 聖別献金 19世紀後半、オレゴンに住む農家の人が、たまねぎ畑の中の10エーカー分の収益を伝道の為に聖別したのが、「聖別献金」のはじまりだと言われています。1905年、ミズリー州ハミルトンの安息日学校の先生が、5人の生徒たちに5セント硬貨を与え、これを何かに投資して増やし、その収益を伝道の為に用いましょうと話しました。ある生徒は、この5セントで卵を買い、ある生徒は野菜の種を買いました。秋には5人に渡した25セントは、11ドルになりました (Schwarz pp379)。聖別献金が“Sabbath School Investment”と呼ばれるゆえんです。日本でも、神様との個人的な約束において、1年間聖別して献金を準備し、12月第1週の安息日にささげます。

福音社書籍のご案内 ご注文はABCまで

定期刊行物

- 『サインズ・オブ・ザ・タイムズ』（月刊誌）
- 『アドベンチスト・ライフ』（月刊誌）
- 『安息日学校聖書研究ガイド（教課）』（年4回 季刊発行物）
- 『安息日学校聖書研究ガイド副読本』（年4回 季刊発行物）
- 『今日の光』（年4回 季刊発行物）
- 『祈禱週の読み物』（年2回 春秋発行物）

サインズ

創刊 110 年を超える『サインズ・オブ・ザ・タイムズ』は、豊かな心と健やかな体を創る月刊誌です。

健康、教育、福祉、環境、人間関係などバラエティーに富んだ内容と幅広い読者層を意識した総合雑誌です。ぜひ大切な方々に紹介してください。



アドベンチスト教会の歩みをもっと詳しく知るために

- 『セブンスデー・アドベンチスト教団日本宣教100年史「希望への歩み」』（岡藤米蔵著）
- 『再臨を待ち望みつつ』（ジョージ・R・ナイト著）
- 『キリスト教 2000 年の歴史』（山形正男著）
- 『暗い夜、きらめく星 アブラム・ラ・ルー物語』（アイリーン・E・ラントリー著）



アドベンチスト教理についてもっと学ぶために

- 『アドベンチストの信仰』（世界総会編）
- 『そこが知りたい SDA57 の Q&A』（白石尚著）
- 『アイデンティティーを求めて
セブンスデー・アドベンチストの教理発展史』（ジョージ・R・ナイト著）
- 『いいえ、安息日は土曜日です』（マーク・フィンレー著）
- 『神の深み』（ジョン・ポーリーン著）
- 『もう一度神と出会う』（ジョン・ポーリーン著）
- 『ジョン・ポーリーン博士の黙示録講義』全4巻（ジョン・ポーリーン著）



アドベンチストのライフスタイルについてもっと学ぶために

- 『トータルヘルスへの 12 の鍵』（世界総会健康部編）
- 『おいしくて体にいい穀菜食レシピ』（神戸アドベンチスト病院栄養科監修）

教会組織についてもっと知るために

- 『教会指針』（世界総会委員会編）



児童向け安息日学校クラス教材

- 幼児・幼稚科（未就学児）用『イエスさまのたからもの』子ども用・教師用
- 初等科下級生（小学1～3年生）用『イエスさまだいすき』生徒用・教師用
『イエスさまだいすき ワークブック』生徒用
- 初等科上級生（小学4～6年生）用『イエスさまといっしょ』生徒用・教師用
- 中等科（中学生）用教材『イエスさまのように』生徒用・教師用

児童向けその他の教材

- 『バプテスマ式・洗足聖餐式絵本「イエスさまありがとう」』（教団家庭部／児童伝道部）
- 『トータルヘルス王国からの招待状』（福音社／児童伝道部）



- ◆『神さまの愛がわかる 28 の方法』（アドベンチスト入門 for Kids!）
- ◆『バイブルタイムライン』（聖書イラスト付年表）

上記は教団伝道局のホームページから無料ダウンロードできます。

聖書の学びを深めるために

- 『やさしい聖書入門』シリーズ全4巻 (Grace、Joy、Peace、Love)
- 『朗読 CD みことばごはん ルカによる福音書（口語訳）』
- 『朗読 CD キリストへの道』
- 『聖書の中の 100 人の女性たち』（パメラ・マックウェイド著）
- 『心に残る聖書の人々』旧約編・新約編（近藤新生著）
- 『最も祝福された 21 人の祈り』（デブ・アーリー著）



福音社

〒190-0011 立川市高松町 3-21-4-202 電話 042-526-7342 FAX 042-526-6066

- サインズ誌、福音社書籍の内容についての問い合わせ
- アドベンチスト・ライフ誌（教団機関誌）ニュースへの投稿
- 自費出版書籍に関するお問合せ

商品注文・発送業務は袖ヶ浦から

書籍係さんを通してご注文先
ご注文先

ウェブストアではクレジットカードでのお支払いが可能です



<http://www.fukuinsha.com>

メール: store@fukuinsha.com

アドベンチスト・ブックセンター(ABC)

- 聖書研究ガイド・教材・福音社書籍の注文
- アドベンチスト・ライフ誌、サインズ誌購読
- 有料トラクト注文
- その他キリスト教書籍、商品の注文
- 教会混載便発送

電話 通信料無料

0120-28-2910

無料FAX 24時間受付

0120-664-220

〒299-0265 千葉県袖ヶ浦市長浦拓 1-1-65

教団紹介



教団本部 横浜事務所

〒241-8501 横浜市旭区上川井町 846

【主な部門】

総理 総務局長 財務局長

法人事務部 管財課

メディアセンター VOP JAPAN

教育局 事業局 牧師会



教団本部 立川事務所

〒190-0011 東京都立川市高松町 3-21-8

【主な部門】

伝道局

総務部

教会事務部

財務部－経理課

原宿事務所

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 1-11-1

【主な部門】

原宿クリスチャンセンター

電話 03-3423-2501 FAX 03-3423-2528

(特活) ADRA Japan (本部)

電話 03-5410-0045 FAX 03-5474-2042

東日本教区 電話 042-526-6200 FAX 042-526-6300

〒190-0011 東京都立川市高松町 3-21-8

西日本教区 電話 06-6351-1043 FAX 06-6354-2894

〒530-0043 大阪府大阪市北区天満 2-2-10-601

沖縄教区 電話 098-982-0720 FAX 098-982-0721

〒901-2316 沖縄県中頭郡北中城村安谷屋 1035

最新情報はホームページからどうぞ。 <http://www.adventist.jp>

▶ 法人事務部

- 教会の保険に関する問い合わせ
- 機関との窓口

こちらから
各種セミナーなどを
見ることができます!

無料FAX 24時間受付
0120-335-717

代表電話 045-921-1121

▶ 管財課

- 教会の建物の維持管理の相談

メディアセンター <http://www.adventistmedia.jp>

e 聖書ネット <http://www.e-seisho.net>

ホープチャンネルジャパン <http://www.hopechannel.jp>

AWR-Japan <http://www.awrjapan.net>

▶ メディアセンター

- 聖書通信講座、修了証書発行、講座申込葉書・講座紹介無料トラクト注文
- インターネット放送、ラジオ放送、視聴覚教材
- ホープビジョンについての問い合わせ

メディアセンター直通
電話 045-921-1416

▶ 伝道局

- (安息日学校部、信徒伝道部、家庭部、女性部、文書伝道部、青年部、PFC、
児童伝道部、健康部、スチュワードシップ部、在留外国人伝道部)
- 教団・部局主催の各行事・セミナーの申込や問い合わせ
 - 各部の教材・資料に関する問い合わせ
 - 期末報告 (SS・信伝)

伝道局直通
電話 042-526-6828

FAXは、立川事務所代表の無料FAX
0120-630-058をご利用ください。
2013年7月に直通電話番号が新しく
なりました。

▶ 教会事務部

- 混載便に関する問い合わせ
- 期末報告 (書記・会計)
- 教会籍に関する問い合わせ
- 献金集計 (振込先)、教会会計監査
- その他、教会役員からの相談、問い合わせ

教会事務部直通
専用電話 0570-045-921
専用FAX 0570-037-262

全国どこからかけても1分10.8円です。
ただし、公衆電話・携帯電話、立川市
近郊からの電話、IPフォンからなど、
一部の電話からは割高になります。

▶ 総務部、コミュニケーション部、広報/宗教自由部

- 海外の教会組織、海外日本人教会の連絡先
- 信徒子弟三育教育奨学金の問い合わせ

代表電話
042-526-6822

▶ 財務部 経理課

- 財務一般、教団への寄贈
- 各教会への送金 (伝道資金など)

財務部直通
電話 042-526-6825

無料FAX 24時間受付
0120-630-058

▶ 東日本教区事務所、西日本教区事務所、沖縄教区事務所

- 教区、地区主催行事の問い合わせ
- 教会理事会・事務会決議録提出
- 教会住所、連絡責任者変更、混載便発送先変更などの届け出
- 地震・風水害の連絡

世界の教会数	75,184
世界の信徒数	17,994,120
日本の教会数	102
集会所/聖書研究会数	48/40
日本の信徒数	15,224

2013年現在

伝道局

教団立川事務所

直通電話
042-526-6828
FAX 通信料無料 24時間受付
0120-630-058

伝道局は、
あなたの教会の伝道を
応援します

最新情報はホームページからどうぞ。 <http://cm.adventist.jp>

安息日学校部

- * 誕生日献金袋や組の記録用紙がほしい。
- * 伝道地便りや伝道地地図がほしい。
- * アドベンチスト・ミッションDVDを送ってほしい。
- * 聖書研究ガイドや副読本の内容について質問したい。
- * 初心者用聖書研究教材について知りたい。

信徒伝道部

- * 「いきいき弟子講座」について知りたい。
- * 健全教会について知りたい。
- * SDA福祉募金の材料がほしい。
- * ヒズハンズに参加したい。
- * 聖書通読証明書を発行してほしい。
- * 無料トラクトがほしい。

健康部

- * ニュースタート健康法について知りたい。
- * 禁煙に関するビデオや紙芝居を借りたい。

青年部

- * パスファインダー(PFC)を発足したい。
- * 祈禱週の読み物について質問したい。
- * 行事に参加したい。
- * 海外ボランティアについて知りたい。
- * 韓国で日本語教師になりたい。
- * 青年伝道のアイデアがほしい。
- * フロントライン(学生伝道師、信徒伝道師、信徒伝道師養成コース)に参加したい。

スチュワードシップ部

- * 献金の勧めがほしい。
- * 献金に関するセミナーを開いてほしい。

文書伝道部

- * ぜひ文書伝道を試してみたい。
- * トラクトの内容について知りたい。
- * ヒズハンズ活動に取り組みたい。

家庭部

- * 「今日の光」の内容について質問したい。
- * 子育てや夫婦関係についてのセミナーを開いてほしい。

女性部

- * 勉強会の資料がほしい。
- * 行事に参加したい。
- * 教会で女性のプログラムをもちたい。

児童伝道部

- * 幼児科・幼稚科教材、小学生用の教材について知りたい。
- * グレースリンクについて知りたい。
- * VBSの内容について知りたい。
- * 児童伝道リーダー養成クラスDVDを借りたい。
- * 児童伝道のアイデアが欲しい。
- * 紙芝居を借りたい。

CTF

- * 「クリスチャン・テレフォン・フレンド」の働きをしたい。

世界のベストセラーを通信講座で！



VOP バイブルスクール

聖書をわかりやすく説明した無料の講座を、好きな時間に
ご自分のペースで基礎から学ぶことができます。



郵便やFAXで申し込む

〒241-8501 横浜市旭区上川井町846 無料FAX 0120-335-717

携帯電話やインターネットからアクセス

メール: info@e-seisho.net

<http://www.e-seisho.net>

(通信料金は自己負担になります。)



HopeChannel JAPAN

ホームページジャパン

インターネット動画伝道。
映像でわかりやすく福音をお伝えします。



<http://www.hopechannel.jp>

あなたに希望の
メッセージを！

機関紹介

教育活動 Education

幼児期から思春期という最も大切な人格の形成期に、聖書の中心テーマである愛に根ざした価値観を子どもたちの心に育んでいくことを最大の目標に置き、思いやりに溢れた心と、社会に奉仕できる健全な身体、高度な知能とをバランスよく発達させる教育を行っています。



正しい価値観と社会に
役立つ能力を育てる
三育教育

【大学】
三育学院大学／短期大学／カレッジ

【高等学校】[全寮制・普通科]
広島三育学院高等学校

【中学校】[全寮制]
北浦三育中学校
広島三育学院中学校
沖縄三育中学校

【小学校】(全国に10校)
札幌三育小学校
函館三育小学校
久慈川三育小学校
光風台三育小学校
東京三育小学校
横浜三育小学校
広島三育学院小学校
広島三育学院大和小学校
鹿児島三育小学校
沖縄三育小学校

【幼稚園】(全国に5園)
札幌、盛岡、横浜、広島、鹿児島

【保育園】(全国に4園)
函館、日立、横浜、沖縄

【英語学校】(全国に2校)
横浜、広島

www.saniku.jp/12/

医療・福祉活動 Welfare

各教会ごとの地域奉仕やボランティア活動の他、各種の老人施設や養護施設を通した福祉活動、さらには政治や人種、宗教を超えた国際援助活動等、「自分にして欲しいと望むことを人びとにも」との聖書のみ言葉を精神として、受ける人の立場に立った様々な福祉活動を行っています。

医療

東京衛生病院
東京衛生病院附属教会通りクリニック
神戸アドベンチスト病院
アドベンチストメディカルセンター(沖縄)

福祉施設

【三育福祉会】
シャローム(神奈川)
シャローム浦上台(神奈川)他

【三育ライフ】

シャローム東久留米(東京)

シャローム若葉(千葉)他

【アドベンチスト福祉会】
シャローム横浜(神奈川)
シャローム桜山(神奈川)他

パルーシア神戸



健康活動 Health Care

健康維持に良いとされる各種植物たんばく食品や豆乳、ゴマ加工品等、100種類にのぼる食品を製造し、健康食品店や通販での販売・提供をしています。



健康食品製造販売

三育フーズ
www.san-iku.co.jp

三育ベジタス
www.vegetus.jp

だから、あなたがたは行って、
すべての民をわたしの弟子にきなさい。
彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、
あなたがたに命じておいたことを
すべて守るように教えなさい。
わたしは世の終わりまで、
いつもあなたがたと共にいる。

マタイ 28 : 19、20